

真宗

〈教団の動き〉

宗務審議会「真宗本廟崇敬護持のための財源の検討に関する委員会」設置

2025年「安居」開講

「大谷祖廟及び東大谷墓地に関する総合整備委員会」開催

「真宗本廟子ども奉仕団」開催

〈災害救援本部より〉

令和6年能登半島地震への支援

〈お知らせ〉

宗議会本会議質問答弁（要旨）及び参議会本会議質問答弁（要旨）の公開について

「各教区・開教区等の行事一覧」の掲載について
教行信証（坂東本）カラー影印本申込受付

〈ご案内〉

2025年 真宗本廟 報恩講

10月号

2025(令和7)年



彼岸花と十三窓土蔵

書籍のご案内

食欲の秋。
精進ごはんを
作りませんか？

重版出来
オール
カラー

精進ごはん おうちでできるレシピ108

森 かおる 著

京都・料理教室「Relish」主宰の料理家・森か
おるさんによる、日々の食事に使えて「お斎」
にも最適な精進レシピ108品を紹介。野菜・豆
腐・乾物などを使用した精進レシピが目白押し
です！ また、親鸞聖人の好物だったと伝わる小
豆を用いた料理や、各地のお寺に伝わるお斎に
についても取り上げています。

◆B5変形判／120頁 定価：1,430円(税込)



東本願寺出版
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

TEL:075-371-9189まで

詳しい書籍情報・試し読みは

東本願寺出版

検索

当派の寺院・教会からの
ご注文は2割引となります。

ほのぼのカレンダー解説書
「こころの味を大切に」
東井義雄著／一〇〇円



2026年ほのぼのカレンダー
東井義雄著／谷内正遠(文字・絵) スケジュールの書き込
みに便利な大判サイズ。一五〇円
※寺院名など印刷可能要実費

◆身近な話題から仏教、
真宗の教えにふれる聞法誌。
〈季刊誌〉
ひとりふたり：
報恩講を迎える 一三六円



法蔵館文庫
■「六要鈔」に現代語訳を試みた意欲的労作。
現代語訳 六要鈔
柳瀬彰弘著 一、六五〇円
■親鸞の物語は、いかにして誕生し変容してきたのか。
語られた親鸞
塩谷菊美著 一、四三〇円

日本浄土思想の歴史
円仁・源信・法然・親鸞
四夷法顯著 日本文化に多大な影響を与えた浄土思
想その歴史上、特に重要な四人の祖師を通して、日本浄
土思想の展開と歴史を学ぶための入門書。二二〇〇円

改訂版 親鸞の成仏道
——証の二重性と「真実証」——
小川一乗著 積尊の覚りと親鸞の真実証は、どのよう
な関係にあるのか。覚りの本質を具体的に明らかにする
本格的な論考。 六、六〇〇円

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458

法蔵館

https://pub.hozokan.co.jp 新刊メール配信中！
表示価格税込 お買上16,500円(税込)以上送料無料

真宗

10月号

第1459号

樹心佛地「ほとけの子」…………… 2

教団の動き…………… 3

宗務審議会「真宗本廟崇敬持のための財源の検討に関する委員会」設置

2025年「安居」開講

「大谷祖廟及び東大谷墓地に関する総合整備委員会」開催

「真宗本廟子ども奉仕団」開催

お知らせ

参議会議員（山陽四国教区・新潟教区）補欠選挙…………… 4

宗議会本会議質問答弁（要旨）及び参議会本会議質問答弁（要旨）… 7
の公開について

「各教区・開教区等の行事一覧」の掲載について…………… 10

宗派公式ウェブサイト『真宗』誌の内容を閲覧できます…………… 11

教行信証（坂東本）カラー影印本 申込受付…………… 12

真宗本廟奉仕・縁・諸研修報告【上山報告】…………… 13

ご案内 2025年 真宗本廟 報恩講

日程・諸行事のご案内…………… 14

2025年「御正忌報恩講」参拝のご案内…………… 18

2025年 御正忌報恩講「子ども報恩講のつどい」…………… 21

2025年 御正忌報恩講・御正忌報恩講讃仰法要（音楽法要）出仕要項… 22

2025年 得度式受式者及び住職・教会主管者就任者への出仕講習会開催要項… 23

各種連載

ハンセン病はいま（332）…………… 24

青少年センターニュース…………… 26

児童教化のページ（593）…………… 28

今月のお寺（228）〈新潟教区照覚寺〉「だれでも立ち寄れる居心地の良い場所」… 30

〈書棚〉…………… 31

ご案内・要項

総合相談室…………… 37

第14回世界同朋大会のご案内…………… 38

首都圏教化推進本部職員（法務員）募集要項…………… 40

真宗本廟奉仕のご案内…………… 41

現在受付中の募集・開催要項等…………… 41

真宗教化センター しんらん交流館のご案内…………… 42

大谷祖廟（親鸞聖人御廟所）のご案内…………… 43

真宗本廟 参拝接待所のご案内…………… 44

（広告）月刊『同朋』10月号
—特集「アポリショニズム——今「廃」すべきこと」…………… 46

公示・告示・任免等…………… 47

ほとけの子

樹心佛地

「世界で一番貧しい大統領」。本年五月に亡くなったウルグアイ元大統領ホセ・ムヒカ氏は、日本でこのように紹介された。ただ本人は「多くのものを必要とする者こそ貧しいのだ」としてその呼び名を意に介さなかったという。彼のスピーチの根底に流れる人間観は、現代日本人にも多くの気づきを与え、大きな共感をもって迎えられた。

次の一節は、彼が日本の子どもたちに向けて語ったメッセージである。

日本にいる子どもたちよ。君たちは今、人生で最も幸せな時間にいる。経済的に価値のある人材となるための勉強ばかりして、早く大人になろうと急がないで。遊んで、遊んで、子どもでいる幸せを味わっておくれ。

振り返って思う。私たちは「価値の高い人間（人材）」に「なる」ことに躍起になり、いつのまにか子どもたちにもそのことを求め過ぎてはいないか。「遊んで、遊んで、子どもでいる幸せを味わっておくれ」との眼差しで子どもたちを見つめる優しさを、そこに「いる」ことだけで感じる愛おしさを、どこかに忘れてしまっていないか。

夏休み期間には「真宗本廟子ども奉仕団」・「真宗本廟中学生・高校生奉仕団」・「同朋ジュニア大会」が開催され、たくさん的小・中・高校生が同朋会館に宿泊し、色々な体験に参加してくれた。

「わたしがわたしのままに」「きみがきみのままに」

だれもがみんな ほとけの子 さあ、いっしょに あそぼうよ

これは「真宗本廟子ども奉仕団」の趣旨文（抜粋）である。わたしをわたしのままに受け容れてくださるほとけさま。子どもたちもスタッフも、ともに「ほとけの子」であるという安心感の中で、互いの違うところを認め、尊重し、ときには面白がる。ここに「いる」自分がそのまま受け容れられるという経験。子どもたちは、真宗本廟でのひとときを通して何を感じてくれただろうか。日常の家庭・学校生活に戻った中で、何かの気づきがあっただろうか。

真宗本廟夏の風物詩ともいうべき子どもたちの弾む声が、境内のそこかしこで響いていた。

教団の動き

教団の動き

行財政改革推進本部

〔8/5〕

宗務審議会「真宗本廟崇敬護持のための財源の検討に関する委員会」設置

八月五日、宗務所において第一回宗務審議会「真宗本廟崇敬護持のための財源の検討に関する委員会」が開催されました。

当委員会は、二〇二四年に提出された「行財政改革検討委員会報告」（本誌二〇二四年八月号八十八頁）における、寺院・教会および門徒によって支えられる宗派財政が、今後の社

組織部

〔8/4・7〕

夏の得度式執行

―仏弟子としての一步を踏み出す―

八月四日及び七日に、真宗本廟にて得度式が執り行われました。八月は夏休み期間であることから、多くの小中学生が受式するため、例年得度式を二度執行しています。四日は九十六名、七日は七十三名、計一六九名の満九歳以上の男女が受式しました。また、得度式の前日である三日と六日には、暑さ対策と消火設備の点検を兼ねて、御影堂への放水が行われ、堂内には冷風機が設置されました。



僧侶として初めてのお勤め

白装束姿の受式者は、御影堂において、大谷暢裕門首より「剃刀の儀」を受けた後、直織・墨袈裟に改着し、法名を授かりました。僧侶として初めての勤行の後には、阿弥陀堂に移動し、ご本尊

に拝礼し、御影堂前にて記念撮影を行いました。その後、視聴覚ホールにおいて「度牒（真宗大谷派僧侶であることの証書）及び法名伝達式」が行われ、受式者一人ひとりに度牒と法名が手交されました。木越渉宗務総長は挨拶の中で「念仏を一緒に称えましょう」と呼びかけ、受式者はまず心の中で、次に隣の人に聞こえるように、最後には会場全体に響くように念仏を称えました。

厳しい暑さの中、得度式を受け、僧侶としての新たな一步を踏み出す日となりました。



委員会の様子

会環境の変化に伴って縮小を余儀なくされる可能性があると指摘について、潜在門徒（例…門徒の親族であって手次寺を持たない方等）や関係人口（例…寺院との直接的な

関係はないが親鸞聖人に関心を持つ方等）等、多様な方々が親鸞聖人の教えに出会い、宗派を支える一人となっていたために必要な具体的施策について検討・審議することを目的として設置されました。

委員会当日は、各委員に委嘱状が伝達された後、下谷泰史氏（宗議会議員）が会長に互選され、石川誠丈氏（北海道教区教区会議長）が会長代理に指名されました。今後、二〇二五年中の答申書提出を目的として審議が進められます。

教育部

7/17・31

2025年「安居」開講

— 本講『顕浄土真実証文類』・

次講『観無量寿経』序分 —

七月十七日から三十一にかけて、宗派における学事の中心道場である「安居」が、真宗本廟および大谷大学を会場に開催され、四十九名の聴衆が研鑽を積みました。

本年は、尾畑文正氏（嗣講・同朋大学名誉教授）が「『顕浄土真実証文類』聞思」を講題として本講を、鶴見晃氏（擬講・同朋大学教授）が「『観無量寿経』序分聞記」を講題として次講の講義を行いました。

本講講義では、『顕浄土真実証文類』全体を丁寧に読まれ、特に後半の還相回向釈では、あくまでも如来からの利他教化が還相回向の

はたらきであり、そのはたらきにあずかって念仏申すところに全ての人と共に生きる生活を賜ることが、「利他教化地の益」ということであると明らかにされました。

次講講義では、『観無量寿経』序分を通して見ていく世界観の構造について語られ、不都合な者を外に排除し、内側の世界を作り出している我々の在り方を表すのが「是旃陀羅」の経言であるとし、そのような善惡でより分けて生きる我々に対して本願は「十方衆生」と呼びかけ、そのことを通して「われら」という人間観・世界観が成立すると講じられました。

また、昨年に引き続き安居の周知を目的として、開講式（十七日）及び満講式（三十一日）、並びに初日の講義のライブ配信を実施しました。

なお、二〇二六年安居については、『顕浄土真実証文類』を講本として延塚知道氏（講師）が本講を、『具三心義』を講本に木越康氏（擬講）が次講を務められ、二〇二六年七月十七日から三十一日までの開講を予定しています。

開講式および満講式の映像は、東本願寺公式YouTubeチャンネルにてアーカイブ公開しています。



本講 尾畑文正氏



次講 鶴見晃氏

開講式
(7/17)満講式
(7/31)

参議会議員（山陽四国教区）

補欠選挙

北川 重美（きたがわしげみ）氏 当選

山陽四国教区では、保田義一参議会議員の辞職に伴い、七月二十四日に招集された教区門徒会（臨時会）において補欠選挙が行われ、北川重美氏が当選しました。北川氏は第一組正圓寺門徒、一九四六年生。七十九歳。任期は二〇二七年四月末日日まで。



参議会議員（新潟教区）補欠選挙

澤 辰雄（さわ たつお）氏 当選

新潟教区では、吉田衛参議会議員の辞職に伴い、七月二十九日に招集された教区門徒会（臨時会）において補欠選挙が行われ、澤辰雄氏が当選しました。澤氏は第二十二組善龍寺門徒、一九四二年生。八十三歳。任期は二〇二七年四月末日まで。



教団の動き

大谷祖廟事務所

「大谷祖廟及び東大谷墓地に 関する総合整備委員会」開催

〔7/14〕

七月十四日、しんらん交流館を会場に「大谷祖廟及び東大谷墓地に關する総合整備委員会」(委員十二名)が開催されました。

この委員会は、大谷祖廟及び東大谷墓地の土地や建物の総合的な整備事業の計画立案を目指し、二〇二五年四月十四日付けにて提出された宗務審議会答申書(本誌八月号二十八頁

「大谷祖廟暁天講座」開催

— 早朝の仏法聴聞 —

〔8/15〕

八月一日から五日にかけて、大谷祖廟の夏の法座である「暁天講座」が開催されました。「暁天講座」は、夏の暑さを避けた早朝の澄んだ空気の中で、親鸞聖人が顕かにされた本願念仏の教えとともに聴聞する場として毎年開催されています。期間中は毎日午前六時三十分からの勤行に引き続き法話が行われました。

各日の講師は、一日―織田顕祐教学研究所有長、二日―真城義麿氏(山陽四国教区善照寺)、三日―松金直美氏(大谷大学講師)、四日―桑羽隆慈氏(浄土真宗本願寺派総務)、五日

―古賀堅志参務。

一日に講師を務めた織田教学研究所有長から



早朝から多くの方が聴聞した

は、「仏性」との講題のもと法話がありました。その中では「親鸞聖人の顕かにされた南無阿弥陀仏」というのは、仏様と私たちの出会いの言葉です。五日間合わせて約三百名が聴聞し、本堂の外、広縁から境内にも椅子席が設けられました。法話の後には、東山に隠れていた太陽の光が境内に降り注ぐ中、大谷祖廟奉仕団体である「大谷講」の方々の協力で、参拝者にパンと飲み物が配られました。



総合整備事業の確認が行われた

により、事業の完遂に向け、総合整備工事に關する必要な事項について調査及び審議するため新たに設置されました。当日は、答申書に基づき、総合整備工事に關する必要な事項について調査及び審議が行われていく予定です。

第64回「東大谷万灯会」開催

―暑さや夜間の参拝―

【8/14～16】

八月十四日から十六日の三日間、大谷祖廟において「東大谷万灯会」が開催され、境内に灯された大小の提灯が訪れる参拝者の足元を照らしました。

東大谷万灯会は、酷暑のお盆でも暑さが和らぐ夜間に参拝できるよう、境内に提灯を灯したことが始まりです。以来、「亡き方を縁として、親鸞聖人が顕かにされた本願念仏のみ教えに出遇う場」となることを願う法会と

して毎年開催しています。

提灯の中でも蠟燭を用いる小提灯は、大谷祖廟を支える賛助団体「東大谷会」

の方々を中心に点灯。また境内では、参拝者が仏教の言葉を身近に



多くの提灯が参拝者の足元を照らした

感じられるよう、御廟に備えられた仏花で「同朋」の花文字を制作し、解説文を配布したほか、竹筒を用いて火文字で「第六十四回東大谷万灯会」と表現しました。

そして万灯会期間中、十九時から大谷祖廟本堂にて「お盆法要」が勤まり、法要後は佐賀枝夏文氏（大谷大学名誉教授）による法話に多くの参拝者が耳を傾けました。

本年は三日間を通して概ね天候にも恵まれ、万灯会の幻想的な風景とともに、手を合わせ亡き方と出遇い直す多くの方々の姿がありました。

研修部

「真宗本廟子ども奉仕団」開催

―テーマ「ほとけの子」―

【7/25～27・29～30】

七月二十五日から二十七日、二十九日から三十日の二回、同朋会館において「二〇二五年真宗本廟子ども奉仕団」が開催され、全国から七十二名の子どもたちと引率者が参加しました。班活動や清掃奉仕、諸殿や境内でのレクリエーションを通して共にテーマに向き合う時間を過ごしました。また、日程中四名が帰敬式を受式。解散式後には、別れを惜しみながら、来年の再会を約束していました。



みんなで「正信偈」をおつとめ



大谷裕新門にインタビュー

探しゲーム」をはじめとした様々なレクリエーション、スタッフによる劇などで交流しました。講師の木村慎氏（山陽四国教区興宗寺）からは、「私たちが生きるということとは多くの水が流れる川をおぼれそうになりながら泳いでいるようなもの。できる、できないで人と比べ、自分と自分を比べ、うまく息ができない私たち。教えは島のようなもの。島について自分で自分が流されていくことに気づき、同じように流されている人の存在に気づく。島に留まることはできないけれど、私

■第一回（七月二十五日～二十七日）

同朋会館の各階に隠された、東本願寺にいる生き物が描かれたカードを皆で探す「仲間

教団の動き

2025年度「真宗本廟中学生・高校生奉仕団」開催

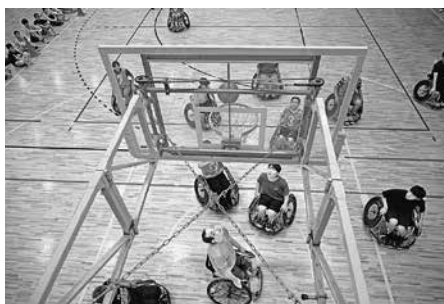
―テーマ「ちがう わかる かわる?」―

【8/7〜9】

八月七日から九日、同朋会館において「真宗本廟中学生・高校生奉仕団」(テーマ「ち



金石氏によるおはなし



大谷中学・高等学校での車いすバスケットボール

しています。

「おはなし」では、講師の金石潤導氏(北海道教区開正寺)が、「北海道に多く自生するトドマツは、気温がマイナス二十五度以下になる真冬に樹木の中の水分が凍結し、膨張して割れる凍裂という現象があり、悲鳴のような音が聞こえてくる。しかし、春になるとその割れ目から樹液が出て樹は自らを修復していく。

私たちは、力をもらってまた流されていく。私を受けとめ、支え、後押ししてくださる力を感じることを大事にしてほしい」とのお話がありました。

■第二回(七月二十九日〜三十日)
班ごとに境内のウォークラリーを行い、東本願寺の広さや大きさを体感。大谷裕新門、木越渉宗務総長や職員等へインタビューし、境内のおすすめスポットにも立ち寄り、夜は皆で宮御殿へ。部屋が真っ暗になり、龍

笛を吹きながら講師の榎山正樹氏(名古屋教区教西寺)が登場。楽器や雅楽の紹介に続いて「お互いの声を聞き合うことを大切にしたい。私さえよければ、自分は正しい」というところにいると、その声が聞こえづらくなる」とのお話がありました。

いつもは伴奏に合わせて歌う真宗宗歌や恩徳讃を、この回ではすべてアカペラで歌い、一人ひとりの声が響き合い一つの音になって東講堂を包み込みました。

お知らせ

宗議会本会議質問答弁(要旨)及び参議会本会議質問答弁(要旨)の公開について

このたび、宗派公式ウェブサイト内「宗会(議会)ページ」に、宗議会本会議質問答弁(要旨)及び参議会本会議質問答弁(要旨)を公開しました。

下記よりご覧ください。

宗派公式ウェブサイト「宗会(議会)ページ」⇒<https://www.higashihonganji.or.jp/prelim-report/>

●第77回宗議会本会議質問答弁(要旨)⇒



●第74回参議会本会議質問答弁(要旨)⇒



青少年センター

【8/14】

第35回「同朋ジュニア大会」開催

—「いのちの正義×正義」—

八月一日から四日にかけて、第三十五回「同朋ジュニア大会」(主催・青少年センター、企画実施・大谷派児童教化連盟)が「いのちの正義×正義」のテーマのもと、真宗本廟を会場に三泊四日の日程で開催され、参加者六十一名、スタッフ二十八名が全国から集いました。

初日は、佐賀枝夏文青少年センター研究員より「出会いのセッション」として、お話とレクリエーションで参加者が交流を深めることからスタート。引き続き講師の梶原敬一氏(僧侶・小児科医)から、今回のテーマをもとにお話がありました。

二日目の野外活動では、班ごとに比叡山に参拝し、源信僧都ゆかりの横川へ。野外にはロープを使った手作りのアスレチックが設置

そしてそれが後に樹のこぶとなり、その樹の姿となっていく。人間もそうではないか。悲しいこと、苦しいことに会って、凍裂を繰り返しながら生きていく。同時に、生きられる場所に根を下ろさないと生きられない、そう樹木から教えられた」と話されました。体験学習では、昨年に引き続き京都大谷中学・高等学校の体育館で、車いすバスケット

ボールを体験しました。女子車いすバスケットボールバリンピックコーチを歴任された坂野晴男氏、車いすバスケットボールチーム京都UPS所属の山本英嗣選手、東武志選手に特別講師として指導いただき、体験後は、山本選手から車いすバスケットとの出会いについてお話を聞きました。

参加者からは「新しいことに踏み出すこと



和敬堂でお勤め



手作りのアスレチックで楽しむ

後八十年をご縁としての法要が勤まりました。近藤章氏(九州教区西心寺)からの法話もあり、非核非戦の願いが表現された法要となりました。夜のつどいでは、参加者並びにスタッフ全員参加型のゲームや、スタンツ(寸劇)、「語り童話」、そして、最後には年代を超えた一体感を生み出した全員での合唱もありました。

最終日には、梶原氏から「二人ひとりが問いを大切にしてください」との言葉があり、全体での活動の時間を終えました。

帰り際には、「来年また来たい!」という参加者の思いに応えるように、スタッフが写真撮影や握手等をしてお見送りをしていました。

され、思い思いに遊びながら、体で学んでいく参加者の姿が見られました。また、今年は戦後八十年ということで、「立命館大学国際平和ミュージアム」にも立ち寄り、非戦平和に関する学びを深めました。

三日目は晨朝参拝後に帰敬式があり、十二名の新たな仏弟子が誕生しました。午前中は梶原氏よりお話、午後は大谷ホールにて、戦

教団の動き

真宗大谷派学校連合会

第33回「大学研修会」・「学長協議会」開催

〔7/11～12〕

七月十一日から十二日まで、「建学の精神の具現化を目指して―建学の精神と合理的配慮―」のテーマのもと、加盟大学・短期大学（部）の連携強化ならびに宗教教育の充実を目的に、第三十三回「大学研修会」・「学長協議会」が開催されました。本年は函館大谷短期大学を会場とし、加盟校十校より、各学長及びテーマに応じた担当者の計十五名が参加しました。

初日は、藤村敦氏（函館大谷短期大学学長）より「合理的配慮の具現化に向けた小規模短



藤村氏による講義

学ぶ」を考える―親鸞聖人の教えと難病の身を通して―」を講題に講義が行われました。難波氏は、「共に学ぶ」ための場の創造の延長線上に合理的配慮（調整）があり、加盟校では、障害学生とそうではない学生、学生と

大の取り組み」を講題に講義が行われ、合理的配慮の義務化に伴う同学の対応と現状の課題について語られました。引き続き、藤村氏の講義を踏まえ、難波教授が「学長協議会」より、「共に学ぶ」を講題に講義が行われ、合理的配慮の義務化に伴う同学の対応と現状の課題について語られました。引き続き、藤村氏の講義を踏まえ、難波教授が「学長協議会」より、「共に学ぶ」を講題に講義が行われ、合理的配慮の義務化に伴う同学の対応と現状の課題について語られました。

参加者からは「気候は涼しいが、研修会の内容は熱かった。厳しい状況下に置かれている大学・短大が多い中、各校が試行錯誤しながら生き残りを考えている。加盟校同士で、忌憚のない意見交換ができて身が引き締まる思いだ」という声がありました。

第55回「新任教職員研修会」開催

〔7/28～30〕

七月二十八日から三十日まで、宗派学校連合会加盟校の新任の教職員（事務職員含む）が建学の精神に対する自覚を深め、教育の実をあげることを目的に、第五十五回「新任教職員研修会」が開催されました。本年は、研修道場を会場に、加盟校十七校より四十三名が参加しました。

初日は、両堂を参拝した後、乾文雄氏（学校連合会副会長）より「真宗大谷派学校連合



一楽氏による講義

会加盟校教職員に願われること」の講題のもと講義が行われました。その後、本廟部堂衆指導による声明練習が行われ、引き続き夕事勤行。夜には各学校の紹介がなされ、参加者同士が交流

を深めました。

二日目は、一楽真氏より「真宗入門」の講題のもと講義があり、引き続き班別座談を実施。午後には、安藤弥氏（学校連合会運営委員）より「真宗本廟（の歴史）に学ぶ」を講題に講義がありました。その後諸殿拝観を行い、夜には再度座談を実施しました。

最終日の朝は各班に分かれて両堂清掃奉仕を行いました。その後、最後の班別座談を行い、全体での報告会を実施。乾氏より全体の総括が行われ、研修会は終了しました。

参加者からは「研修会中や日々の学校生活

災害救援本部より

■「令和6年能登半島地震」 ボランティア支援センターの ご案内

能登教務所に設置している「ボランティア支援センター」では、宗派関係者のボランティア活動に対して、宿泊場所の提供・活動経費の助成等の支援を行っています。

※宿泊・活動助成等の詳細は
ボランティア支援センター
ウェブサイトをご覧ください。

〒926-0816 石川県七尾市藤橋町〒9-1
[能登教務所内]

TEL : 070-1860-6010 (専用電話)

FAX : 0767-53-0057 [能登教務所]

E-mail : nvsc@higashihonganji.or.jp

■救済金のお願い

皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

令和6年能登半島地震
指定救援金総額

247.865.029円 (9月2日現在)

※宗派救援金口座及び境内救援金箱に寄せられた救援金の総額

【救援金口座】 郵便振替口座番号
00920-3-203053

【加入者名】 真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。

〈最新情報はこちら〉



宗派公式
ウェブサイト



宗派災害情報
公式X

関係学校が真宗本廟参拝・研修を行う

七月に宗派学校連合会加盟校による真宗本廟参拝・研修が行われました。実施校は左記のとおりです。

〈研修〉

◇光華小學校（三年生）

三十五名／七月十八日、十九日



光華小學校（7月18日～19日）

の中では、「分かりたい、納得したい」という思いを持ち、そこに向けて一生懸命努力をしている。しかし、「分かった」という立場に立った時、「聞く」ことができなくなってしまう。

しまう。だからこそ、「間い」を大切にする姿勢を忘れないようにしたい」という声がありました。

お知らせ

「各教区・開教区等の行事一覧」の掲載について

本誌2025年8月号まで「教区から・首都圏教化推進本部から・開教区から」として掲載していた各教区・開教区等で行われる行事予定につきまして、9月より、「浄土真宗ドットインフォ」（しんらん交流館HP）において掲載しています。

浄土真宗ドットインフォ内「参加する（開催案内）」のページよりご覧ください。

◆「参加する（開催案内）」ページ

⇒<https://jodo-shinshu.info/sanka/>



お知らせ

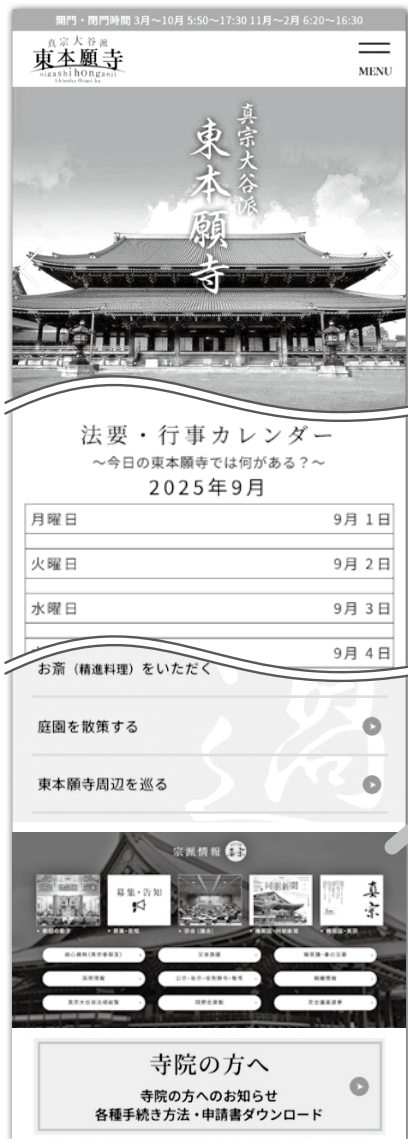
宗派公式ウェブサイトで『真宗』誌の内容を 閲覧できます

2025年7月より、これまで『真宗』誌で掲載してきた内容が、宗派公式ウェブサイトでも閲覧可能となります。それに伴い、『真宗』誌面も順次掲載内容の精査を行っていきます。

今後、ウェブ上での情報発信をさらに充実させていきますので、これまで以上に宗派公式ウェブサイト及び公式SNSをご活用いただきますよう、ご案内します。

【宗派公式ウェブサイトトップ】

※スマートフォン版 2025年7月以降



新設 【宗派情報コーナー】



★主なポイント★

- ✓ 巻頭言「樹心佛地」や「教団の動き」、宗会情報などもウェブサイトに掲載。
- ✓ 「教区から」欄は、浄土真宗ドットインフォ（しんらん交流館HP）へ移行。（本誌10頁参照）
- ✓ ウェブサイトに「法要・行事カレンダー」を掲載し、どなたでも参拝・参加可能な行事を一覧で表示。

※ウェブサイトで閲覧可能な情報は、『真宗』誌面の掲載を割愛する場合があります。

真宗大谷派公式ウェブサイト ⇒
<https://www.higashihonganji.or.jp/>



教行信証(坂東本) カラー影印本 申込受付

このたび、『坂東本 教行信証』カラー影印縮刷本(東本願寺出版)の発行に際して、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の記念事業として2005年に製作された、高精細カラー印刷を用いた『教行信証(坂東本)』カラー影印本(原寸大)を、あらためてお求めになる声が寄せられました。

そこで、その声にお応えして本山で大切に保管しておりました最後の30部を頒布いたします。

これが最後の機会となりますので、ぜひともお申込みください。



受付期間：2025年**10月1**日から2026年**6月30**日まで【**申込先着順**】

懇 志 金：580,000円以上

申込方法：①お名前、ご住所、お電話番号をFAXまたはメールにて送信ください。なお、件名として「教行信証(坂東本) カラー影印本申込」と記載ください。

②財務部から電話にて申込確認をいたします。

③振込確認後、送付いたします。

注意事項：領収書は発行いたしませんのでご了承ください。

金融機関発行の振込明細をもって領収にかえさせていただきます。

【振込先】

北陸銀行 京都支店(支店コード804)(普通) 1080340

名義：真宗大谷派宗務所(ジシユウオオニシユウシヨ)

【お問い合わせ】

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上ル常葉町754 真宗大谷派宗務所 財務部
TEL: 075-371-9186 FAX: 075-371-9195 mail: zaimu@higashihonganji.or.jp

真宗本廟奉仕・縁・諸研修報告

(研修部)

▼真宗本廟奉仕(25・8月) ▲

教区	組	団体名	引率者名	人数	期間
能登		子どものつどい	富田智香	51	8/19～21
金沢		子ども奉仕団	廣瀬仁	38	8/19～21
金沢		金沢真宗学院同窓会奉仕団	荒木範夫	9	8/26～27
岐阜高山	高山2	第45期親鸞教室後期教習	森恒河	8	8/29～31
大垣	第1	同朋少年研修会	藤江充	21	8/5～6
大垣	第6	第45回同朋少年研修会	桑原元昭	40	8/7～8
大垣		大垣真宗学院	中堂華文	38	8/29～31
岡崎	第3	子ども奉仕団	本多覚志	30	8/5～6
大阪	第14	妙隆寺奉仕団	辻岡慶順	5	8/29～30
山陽四国		児童夏のつどい	本谷廣	95	8/19～21
真宗本廟中学生・高校生奉仕団		研修部		30	8/7～9
計11団体				365名	

▼縁(25・8月) ▲

計1期間 1団体 5名

▼諸研修(25・8月) ▲

研修・会議名	担当部	人数	期間
第35回同朋ジュニア大会	青少年センター	90	8/1～4
第2回前期教師修練	研修部	35	8/2～8
第3回前期教師修練	研修部	31	8/18～24
住職修習	研修部	37	8/26～28
計4団体		193名	

『坂東本 顯淨土眞實教行證文類』
カラー影印縮刷本11月下旬発売
予約受付中

掲載内容(四分冊)

- 〈一〉「教巻・行巻」150頁
 〈二〉「信巻」182頁
 〈三〉「証巻・眞仏土巻」138頁
 〈四〉「化身土本巻・化身土末巻」244頁

聖教編纂室 編
 A4変形判(縦30.5cm×横23cm)
 オールカラー・箱付き

ご好評につき

価格: 99,000円(税込・送料込) → 先着100冊に限り79,200円(税込・送料込)

お申し込みはFAX・はがき・メール・オンラインショップから ※寺院・教会割引は適用されません。

東本願寺出版
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
E-mail books@higashihonganji.or.jp FAX.075-371-9211

東本願寺出版 検索



—2025年—

真宗本廟 報恩講

11月21日(金)～28日(金)

今年も真宗本廟において、報恩講が

厳修されます。

念仏の教えに遇い、生きる依り処を
いただいたご恩に感謝し、親鸞聖人の
ご遺徳を偲びます。

◆報恩講の特設サイトを開設しています。法要の最新情報の特設サイトをご覧ください。

◆法要にあたり、木越渉宗務総長からのメッセージを公開しています。ぜひご覧ください。



※掲載内容は変更する場合があります。

※期間中は真宗本廟収骨・本山永代経・御影堂読経についてはお取り扱いはありません。

〈開門・閉門時間〉

11月21日 開門 6時20分、閉門 17時

11月22日・23日・24日・26日・27日 開門 5時30分、閉門 17時

11月25日 開門 5時30分、閉門 19時

11月28日 開門 5時、閉門 16時30分

〈参拝の申込・お問い合わせ〉

本廟部・参拝接待所 TEL 075-371-9210

日程 11月21日(金)

9:00	集会・法話
	内局挨拶
10:00	御正忌報恩講讀仰法要(音楽法要)
	約1時間
引続	帰敬式
13:15	集会・門徒感話
	報恩講法話
	内局挨拶
14:00	御正忌報恩講 初速夜(案) 約1時間30分
引続	初夜勤行(正信偈草四句目下・同朋奉讃)

日程 11月22日(土)

6:50	初晨朝
	御文
	晨朝法話
9:30	集会・報恩講法話
	内局挨拶
10:00	初日中(案)
	約1時間45分
引続	帰敬式
13:15	集会・生徒感話
	報恩講法話
	内局挨拶
14:00	速夜
	約1時間
引続	御文法話「御正忌」(5帖目11通)
	初夜勤行(正信偈草四句目下・同朋奉讃)



日程					
6 50	9 30	10 00	引続	13 15	14 00
晨朝	晨朝法話	集会・報恩講法話	内局挨拶	日中	約1時間
御文	集会・生徒感話	報恩講法話	内局挨拶	中速夜(案)	約1時間30分
御文法話	「中古已来」(4帖目5通)	初夜勤行	(正信偈草四句目下・同朋奉讃)		

日程					
6 50	9 30	10 00	引続	13 15	14 00
晨朝	晨朝法話	集会・報恩講法話	内局挨拶	日中	約1時間
御文	集会・生徒感話	報恩講法話	内局挨拶	速夜	約1時間
御文法話	「八箇条」(4帖目8通)	初夜勤行	(正信偈草四句目下・同朋奉讃)		

日程					
6 50	9 30	10 00	引続	13 15	14 00
晨朝	晨朝法話	集会・報恩講法話	内局挨拶	日中	約1時間
御文	集会・門徒感話	報恩講法話	内局挨拶	速夜	約1時間
御文法話	「大坂建立」(4帖目15通)	初夜勤行	(正信偈草四句目下・同朋奉讃)		

日程					
6 50	9 30	10 00	引続	13 15	14 00
中晨朝	晨朝法話	集会・報恩講法話	内局挨拶	中日中(案)	約1時間40分
御文	集会・門徒感話	報恩講法話	内局挨拶	速夜	約1時間
御文法話	「毎年不闕」(3帖目11通)	初夜勤行	(正信偈草四句目下・同朋奉讃)	御伝鈔	約2時間
後夜勤行					

日程					
6 30	9 00	10 00			
結願晨朝	晨朝法話	集会	祖徳讃嘆	草野顕之氏	(講師・大谷大学名誉教授)
御文	集会・生徒感話	報恩講法話	内局挨拶	結願日中(案)	約2時間30分
御文法話	「大坂建立」(4帖目15通)	初夜勤行	(正信偈草四句目下・同朋奉讃)		

日程					
6 50	9 30	10 00	引続	13 15	14 00
晨朝	晨朝法話	集会・報恩講法話	内局挨拶	日中	約1時間
御文	集会・門徒感話	報恩講法話	内局挨拶	速夜	約1時間40分
御文法話	「毎年不闕」(3帖目11通)	初夜勤行	(正信偈草四句目下・同朋奉讃)	御俗姓	
後夜勤行					

講演会・法話情報 〈真宗教化センター しんらん交流館〉

〈第33回真宗教学学会講演会〉

◇11月24日(月) 18時〜20時20分(17時開場)

会場 真宗教化センター しんらん交流館2階大谷ホール
お問い合わせ 教育部 TEL..075-371-9193

■テーマ 人と生まれて―信仰と社会―

■講師

「釈子畢罪の時、仏もまた頭痛す」
福田 琢氏 (同朋大学学長)「自分史を省みる―近現代真宗史学徒として―」
福島 栄寿氏 (大谷大学教授)

真宗教学学会では、毎年、真宗本廟(東本願寺)の報恩講期間中に、宗派内外から講師をお招きして講演会を開催しています。その講演会のテーマを、2023年度から「人と生まれて」と設定しました。「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」では「南無阿彌陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」とのテーマが掲げられました。三帰依文の冒頭でも「人身受け難し、いますでに受く」とあります。人と生まれたことは、決して当たり前ではありません。その意味をたずねていくことが、私たち一人ひとりの大切な課題ではないでしょうか。

私たちは共に人の身を受け、今ここに共に生きています。人と生まれたことは、私たちが共に生き合うにあたってまず確認しておかなければならないことでしょう。

そこで、「信仰と社会」というサブタイトルをつけました。信仰は私個人の中における出来事ではありますが、私を取りまく社会の中で問いかけれ、意味づけられてくるものです。信仰は社会とのいかなる関係にあるのか、信仰者は社会といかなる関係を結ぶのか、多くのご参加をいただき、共に考える機会となることを願っています。

〈親鸞聖人讃仰講演会〉

◇11月26日(水)〜28日(金) 17時〜20時(16時開場)

11月26日から28日の3日間、親鸞聖人を讃仰する講演会を開催します。ぜひご来場ください。

会場 真宗教化センター しんらん交流館2階大谷ホール
お問い合わせ 教学研究所 TEL..075-371-8750

●講師

26日(水) 「聖人一流の道をあゆむ」

井上見淳氏 (龍谷大学教授)

「親鸞聖人と関東の門弟」

草野顕之氏 (大谷大学名誉教授)

27日(木) 「愚禿と名のつた念仏者」

楠 信生氏 (元教学研究所長)

「『大無量寿経』の聞思

―『歎異抄』になぜ承元の法難の記事が書かれたのか―」

延塚知道氏 (大谷大学名誉教授)

28日(金) 「親鸞聖人の涙に導かれて」

森村森鳳氏 (同朋大学特任教授)

「『本願力回向』ということ」

本多弘之氏 (親鸞仏教センター所長)



※講演の様子をインターネットにて同時配信いたします。

詳しい情報は

しんらん交流館ホームページにて公開中!

浄土真宗ドットインフォ

検索



報恩講 各種催事



見聞『教行信証』坂東本

—親鸞聖人から私たちへのメッセージ—

期間：11月21日(金)～28日(金)

①11時40分～ ②12時40分～、1回約15分

※21～23日・25日・28日は②のみ

会場：阿弥陀堂

※都合により急遽会場を変更する場合があります。

- 親鸞聖人自筆の『教行信証』坂東本(影印本)を展示し、教学研究所の研究職員が解説します。

子ども参拝案内所

期間：11月23日(日)・24日(月)・28日(金)

9時～16時(※28日は12時まで)

会場：境内白洲テント

- 子どもたちに向けた両堂の参拝案内や参拝記念品の配布、工作や紙芝居の上演、絵本の読み聞かせ等を実施します！

AIAUひろば

期間：11月21日(金)～28日(金)

会場：しんらん交流館1階

- 差別や戦争といった苦しみの中で、解放を願う人びとの言葉や絵画、版画等を、パネルや動画で展示しています。

刑務所作業製品展示即売会・パネル展

期間：11月21日(金)～28日(金)

9時～16時(※28日は12時まで)

会場：境内白洲テント

- 刑務所作業製品の展示即売会と、真宗大谷派の教誨師や篤志面接委員の取り組みを紹介するパネル展を行います。

御正忌報恩講コンサート

日時：11月27日(木) 11時30分～13時30分

会場：しんらん交流館大谷ホール

- 各教区の合唱団及び関係学校による仏教讃歌のコンサートです。

出演団体 ◎女声合唱団マユラ(北海道教区) ◎大阪御堂合唱団(大阪教区) ◎大谷大学男声合唱団&コールリンデンクラブ(大谷大学男声合唱団OB会) ◎岡崎教区合唱団「コールアパー」 ◎光華小学校(京都市)

令和6年能登半島地震 復興支援事業

◆11月22日(土)：ドキュメンタリー映画上映会

会場：参拝接待所視聴覚ホール

◆11月22日(土)～24日(月)

能登半島地震復興応援広場

会場：お東さん広場

◆11月21日(金)～28日(金)

能登半島地震 災害救援本部の動き

会場：境内白洲テント

- 令和6年能登半島地震の復興支援として、被災地の様子を伝える映画上映、能登の復興を応援する物産市、パネル展等を開催します。

報恩講園児絵画展

期間：11月14日(金)～28日(金)

会場：しんらん交流館1階ロビー

御影堂北側高廊下

京都駅前公益地下ストリートギャラリー

※観覧時間は各施設に準ずる(28日は12時まで)。

- (公社)大谷保育協会加盟園と京都市内の幼稚園・保育園・認定こども園から募集した園児の絵画を展示します。

大谷中学・高等学校 吹奏楽部演奏会

日時：11月23日(日) 11時30分～12時

会場：御影堂北側広縁

- 大谷中学・高等学校吹奏楽部のみなさんによる躍動感溢れる演奏をお楽しみください。

東本願寺たかくらこども園園児による発表会

日時：11月25日(火) 11時～12時

会場：真宗本廟視聴覚ホール

- 園児たちが歌やダンスを披露します。

(公社)大谷保育協会京都支部代表園児による

報恩講合同参拝・公開保育

日時：11月21日(金) 11時～12時15分

会場：真宗本廟視聴覚ホール

- 親子で取り組むレクリエーションがほほえましい公開保育に、ぜひお越しください。

本廟部・参拝接待所

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9210 (本廟部・参拝接待所) FAX.075-371-9204

2025年「御正忌報恩講」参拝のご案内

本年も真宗本廟において、11月21日の「御正忌報恩講讃仰法要（音楽法要）」に始まり、21日初逮夜から28日結願日中まで「御正忌報恩講」が厳修されます。

真宗門徒にとって最も大切な仏事である報恩講に、有縁の皆様をお誘い合わせの上、ぜひご参拝くださいますようご案内申し上げます。

**【申込締切】 2025年10月31日(金) 午後5時まで**

※受付は各日午前9時から午後5時までです。

※お齋・お弁当(次頁参照)を申し込む場合、食数に限りがありますのでお早めにご連絡ください。定員になり次第締め切ります。

【申込方法】 下記のいずれかの方法で本廟部参拝接待所へ直接お申し込みください。

【TEL】 申込要項の内容をお伝えください。

【FAX】 宗派ウェブサイトより申込書をダウンロードしてご利用ください。

【WEB】 宗派ウェブサイトの特設フォームでお申し込みください。

申込書及びお申し込みフォームはこちら➡



※参拝のお申し込みをいただきました団体または個人には、報恩講参拝の記念品をご用意いたしますので、公共交通機関でお越しの方や少人数の方、お一人からでもぜひお申し込みください。

※バス・乗用車の駐車をご希望される場合は必ずお申し込みが必要となります。

【参拝申込要項】**1. 申し込みに際して****(1) 申し込み時にお知らせいただく必要な事項**

- ①参拝日 ②参拝される法要(〔例〕日中) ③到着時刻・出発時刻 ④団体・個人名称
⑤引率責任者氏名・連絡先電話番号 ⑥参拝人数 ⑦お齋申込の有無 ⑧お弁当申込の有無
⑨帰敬式受式の有無 ⑩渉成園参観の有無 ⑪交通手段(バス・乗用車台数)
⑫大谷祖廟参拝の有無

(2) 申し込み後に、到着・出発時刻、参拝人数、バス・乗用車駐車等に変更が生じた場合は、必ず本廟部参拝接待所にご連絡ください。

(3) 11月中旬を目途に、引率責任者へ案内状・参拝確認書・駐車ステッカー等を送付いたします。
※申し込み期間後に変更された内容については参拝確認書に反映されませんので、ご承知おきください。

2. バス・乗用車の駐車について

- (1) 団体・個人参拝申し込みをされたバス・乗用車のみ、指定場所に駐車できます。駐車を希望する場合は必ず申し込みをしてください。また、申し込まれた団体・個人には駐車ステッカーを送付します。
- (2) 駐車ステッカーは、表示内容が確認できるよう、バスの場合は車両の前面（フロントガラス）及び側面（ガラス面）に、乗用車の場合はダッシュボードに必ず貼付ください。ステッカーの掲示がない場合は駐車できません。
- (3) 駐車場では係員が誘導・整理を行います。乗降場所については、係員の指示に従ってください。

3. 報恩講のお斎について

報恩講の「お斎」は、全国各所より御同朋が食材を持ち寄り、宗祖のご遺徳を偲びつつ、厳粛にいただく御仏事として永く執り行われています。

本年も、お申し込みいただいた皆様に、一膳のお斎から浄土真宗の歴史を味わっていただくことを願いとし開催いたします。

- (1) 期 間：11月21日(金)～28日(金)

時 間	21日(金)	22日(土)	23日(日)	24日(月)	25日(火)	26日(水)	27日(木)	28日(金)
1 回目	12：10	12：10	11：40	11：40	12：10	11：40	11：40	12：50
2 回目			12：40	12：40		12：40	12：40	

※帰敬式を受式される方は2回目にお申し込みください。

- (3) 定 員：各回120名（全席椅子席）
- (4) 会 場：大寝殿または表小書院
- (5) 内 容：報恩講「お斎」〔お斎・けんちん汁など〕
- (6) 冥 加 金：お一人 4,500円
- (7) 特記事項：定員になり次第締め切ります。会場はお選びいただけません。

空席がある場合に限り当日券をご用意いたします。

ご予約日の前日12時以降の人数変更及びキャンセルはできませんので、予めご了承ください。

4. 昼食弁当

報恩講期間中に参拝された方々への昼食として、お弁当（1食2,000円・お茶付）をご用意いたします。会場は「しんらん交流館」または「和敬堂」（最大70席・会場指定不可）です。ご希望の場合は、5名からお申し込みください。なお、受け入れ人数に限りがありますので、定員になり次第締め切ります。

- (1) 期 間 11月21日(金)～28日(金)
- (2) 時 間 11時～13時
- (3) 料 金 2,000円
- (4) 会 場 しんらん交流館すみれの間（20名）／和敬堂講義室（50名）

	21日(金)	22日(土)	23日(日)	24日(月)	25日(火)	26日(水)	27日(木)	28日(金)
しんらん交流館	○	○	○	—	—	—	—	—
和 敬 堂	○	○	○	○	○	○	○	○

※会場は、時間・人数を調整して振り分けますのでご指定いただけません。

※申込時に会場をお伝えしますが、都合により、その後に会場を変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。

5. 帰敬式について

- (1) 帰敬式は、21日の讃仰法要後、22日～27日の日中法要後、御影堂において執行されます。ただし、28日は執行されません。
- (2) 住職選定法名及び団体による受式については、「帰敬式受式者届」を受式日の1ヵ月前までに直接、本廟部参拝接待所へご提出ください。
- (3) 受式当日、本廟部参拝接待所で9時30分までに受付をお済ませください。
- (4) 帰敬式終了予定時刻は正午前後となります。

6. 注意事項

- (1) 各法要の開式時間にご留意ください。
- (2) 参拝時に体調を崩された場合は、お近くのスタッフにお声がけください。
- (3) 法要中の写真や動画の撮影はご遠慮ください。
- (4) 時間に余裕を持った計画を立てられるようお願いいたします。
- (5) ご参拝の際には、ご門徒に肩衣(畳肩衣・略肩衣)を着用いただくよう奨励ください。
- (6) 真宗本廟収骨・永代経・御影堂読経はお取り扱いがありません。
※参拝接待所(地下仏間)での読経はお取り扱いがあります。
- (7) 行事等で諸殿を使用しているため、諸殿案内はできません。
- (8) 法要途中での退席はなさらないようお願いします。
- (9) 渉成園にもぜひご参観ください。(11月の参観時間は9時～16時 ※15時30分受付終了)

【お問い合わせ】 本廟部参拝接待所

TEL: 075-371-9210 (9時～17時) FAX: 075-371-9204

E-mail: honbyo@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派ウェブサイト <https://www.higashihonganji.or.jp/>



渉成園のご案内

四季折々に美しさを見せる渉成園ですが、特に報恩講の季節には楓、銀杏などが色づき、より一層その趣を高めています。

御正忌報恩講のご参拝とあわせて、渉成園にもぜひご参観ください。



渉成園について、詳しくはこちらをご覧ください→



渉成園Instagram→



青少幼年センター

〒600-8164 京都府京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地 真宗教化センター しんらん交流館
TEL.075-354-3440 FAX.075-371-6171

帰敬式が
受式できます

2025年 御正忌報恩講 「子ども報恩講のつどい」

はじめての報恩講 —東本願寺で子ども会—

「子ども報恩講のつどい」は本年14回目を迎えます。テーマは〈はじめての報恩講—東本願寺で子ども会—〉として開催しています。このテーマには「子ども報恩講のつどい」を機縁として、はじめて報恩講にお参りいただきたいという願い、さらに毎年の“例時”としての報恩講を常に“初事”として勤めていきたいとの思いが込められています。

ぜひ、ご家族やご友人等お誘いあわせの上、報恩講にお参りくださいますよう、ご門徒各位にご奨励ください。

- 1 期 日 2025年11月23日(日・祝)
- 2 会 場 御影堂・阿弥陀堂・同朋会館・和敬堂
- 3 お 話 乾 文雄氏(大谷中学・高等学校長)
- 4 参 加 費 500円〔記念品・精進カレー〕
- 5 定 員 250名(先着順)
- 6 参加対象 12歳までのお子さま、保護者・引率者
※乳幼児の方のご参加については、必ず保護者同伴でお願いします。
- 7 申込方法 右記申込フォームよりお申込みください。フォームからの申込が難しい方は、青少幼年センターまでお電話にてお問い合わせください(TEL:075-354-3440)。  **申込フォーム**
- 8 申込期間 2025年9月1日(月)9時～10月31日(金)17時
(定員になり次第締め切らせていただきます)
- 9 当日受付 子ども参拝案内所(境内白洲) 10時30分～12時15分
- 10 持 参 品 念珠・あかほんくん勤行集(お持ちの方)
- 11 帰 敬 式 「子ども報恩講のつどい」をご縁としてぜひご受式ください。

受式礼金 お一人20歳以下5,000円(21歳以上10,000円)

受式を希望される場合は青少幼年センターまでお問い合わせください。

TEL:075-354-3440 E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp

- 12 日 程 (予 定)
 - 10:30 受付開始〈子ども参拝案内所:境内白洲〉
 - 12:00 ちかい・アイスブレイク〈阿弥陀堂〉
 - 12:20 お勤め・お話(乾氏)〈御影堂〉
 - 13:00 お斎(精進カレー)〈和敬堂〉
 - 14:00 ゲーム・人形劇(山添真寛氏)〈同朋会館〉
 - 15:00 解散

※日程は都合により変更となる可能性があります。

- 13 留意事項 当日の御影堂の様子はYouTube「真宗大谷派公式チャンネル」にてライブ配信されます。

- 14 その他 報恩講期間中の11月23日(日・祝)、24日(月・祝)、28日(金)は、境内白洲にて「子ども参拝案内所」も開設しておりますので、ぜひお立ち寄りください。



本廟部 式務所

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9188 FAX.075-371-92052025年 御正忌報恩講・御正忌報恩講讃仰法要（音楽法要）
出仕要項

11月21日(金)から28日(金)まで厳修されます御正忌報恩講、21日(金)の御正忌報恩講讃仰法要（音楽法要）に出仕を希望される方は、下記要項をご参照の上、別紙出仕願（9月号巻末綴じ込み）をご提出ください。出仕願は宗派公式ウェブサイトからもダウンロードいただけます。

1 出仕願について

- 出仕を希望される方は、9月号巻末綴じ込みの出仕願を、所轄の教務所を経由して本廟部（式務所）に提出してください〔10月31日(金)必着〕。なお、願書が不足の場合は最寄りの教務所へお問い合わせください。
- 法臈加算のための出仕証明が必要な方は「有」に○を、必要のない方は「無」に○をしてください。
- 法臈加算申請のための出仕証明書は、予定されている出仕の最後にご本人に手交いたしますので、必ずお受け取りの上お帰りください。
- 出仕を希望される方は必ず提出期限を守ってください。
- 出仕を希望する法要に必ず○をつけてください。

2 出仕について

- 改着場所 男性：式務所 1階南・北大広間 女性：式務所 1階北小間

※改着場所にて装束着用後、出仕控室（式務所 2階北大広間）で出仕点検を受けてください。

- 刻限・集合時刻・装束

①御正忌報恩講讃仰法要（音楽法要）

	法要刻限	集合時刻	装束
21日	10:00	9:20	裳附・五条袈裟・差貫

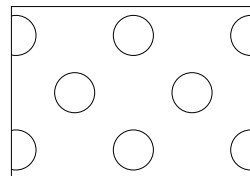
②御正忌報恩講

		法要刻限	集合時刻	装束
21日 ～ 28日	逮夜	14:00	13:20	裳附・五条袈裟 (21日、24日、27日は裳附・五条袈裟・差貫)
	晨朝	6:50 (28日は6:30)	6:30 (28日は6:10)	色直綴・五条袈裟 (28日は裳附・五条袈裟)
	日中	10:00	9:20	裳附・五条袈裟・差貫

- 装束について 出仕の際には、下記制限をご留意いただき、正規のものをご準備ください。

《五条袈裟について》

- 地合は、堅地、綾地及び平織とする。
- 色目は、萌黄、紫、その他許可された色（正銀色、長春色など）一色とする。
- 文様は、無地とする。ただし、金入に限り、平金一色を用いることができる。
- 紋径は、7糎（センチメートル）乃至9糎とする。
- 2種類以上の紋を使用することはできない。
- 紋を重ねたり、連続紋とすることはできない。いわゆる釜抜、一ツ抜紋、居並びとすることはできない。ただし、褒賞衣体を除く。
- 別に許可せられたものは、小紋とすることができる。この場合、八藤紋に限ることとし、④の制限を除く。
- 寺紋・家紋は、紋白に限る。



釜抜（一ツ抜）

《白服・白足袋等》

- 白服は、皆白のこと。綸子、唐綸子、縮緬等は着用できない。
- 足袋は、白襪子又は白足袋のこと。小鉤のあるものに限る。 ③帯は、白帯に限る。

4 法臈加算手続きについて

法臈加算を受けるためには、出仕願（裏面）の要項をご参照の上、別途教務所へ申請ください。

5 得度受式者及び住職・教会主管者就任者への出仕講習会について ※詳細は本誌23頁をご確認ください。

11月23日(日)の逮夜法要前に、2020年7月1日～2025年6月30日に得度式を受式された方並びに住職・教会主管者に就任された方を対象として、出仕作法や衣体改着についての講習会を行います（先着30名）。

6 その他

- 期間中は、自家用車の境内での駐車はご遠慮ください。 (2) ご不明な点は、教務所までお問い合わせください。

本廟部 式務所

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9188 FAX.075-371-9205

2025年 得度式受式者及び住職・教会主管者就任者への 出仕講習会開催要項

御正忌報恩講期間中の11月23日(日)の逮夜法要前において、過去(2020年7月1日～2025年6月30日)に得度式を受式された方並びに住職・教会主管者に就任された方を対象とした、出仕作法や衣体改着についての講習会を下記のとおり開催いたしますので、万障繰り合わせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

- 1 期 日 2025年11月23日(日)
- 2 対 象 得度受式者、住職・教会主管者
※2020年7月1日～2025年6月30日に得度、住職・教会主管者に就任された方
- 3 会 場 式務所、研修道場など
- 4 募集人数 30名(先着順、定員に達し次第締め切ります。)
- 5 募集期間 2025年9月1日(月)～2025年10月31日(金)
- 6 装 束 裳附・五条袈裟・中啓・半装束念珠
- 7 日程(予定) 11:30 受付
11:50 開会(予定)
13:30 閉会(予定)
- 8 申込方法 宗派公式ウェブサイトから「出仕講習会 申込書」をダウンロードし、申込書に必要事項をご記入いただき、郵送またはFAX、メールにて本廟部式務所までお申し込みください(※後日申込者へ、日程詳細等についての通知を送付いたします)。
- 9 そ の 他 (1) 対象者へは本廟部(式務所)より、直接案内を送付しております。上記要項を必ずご確認の上、お申込みください。
(2) 各法要へ出仕される場合は、別途出仕願を提出してください(※本誌22頁参照)。なお、講習会終了後、そのまま逮夜法要へ出仕することも可能です。
(3) 未成年者(18歳未満)受講に限り、付添人1名帯同いただけます。
(4) 境内における自家用車の駐車はご遠慮ください。
- 10 お問い合わせ 本廟部式務所
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL: 075-371-9188(平日9時～17時) FAX: 075-371-9205
mail: honbyo@higashihonganji.or.jp



出仕講習会
申込書

ハンセン病はいま

332

解放運動推進本部

真宗大谷派ハンセン病問題に関する懇談会(「ハンセン懇」)には、真相究明部会という作業部会があり、各課題のもとにそれぞれ活動班に分かれて取り組みが進められています。今号では、その中の資料調査班の活動について、委員である福島栄寿さんに、全国の療養所の同朋の会で大切に使われてきた仏具や日誌などを調査・保存管理することの意義についてご執筆いただきました。

ハンセン病はいま

——真相究明部会資料調査班の活動から——

大谷大学教授・「ハンセン懇」真相究明部会委員 福島 栄寿

はじめに

真相究明部会には、いくつかの活動班が設けられているが、拙稿では、その一つである資料調査班の活動について、紹介したい。

『最終報告書』『宗教界』が問うもの

財団法人日弁連法務研究財団ハンセン病問題に関する検証会議が、二年間にわたる同会議による検証の結果を『最終報告書』として発行したのは、二〇〇五年三月である。すでに二十年の月日が経過した。その一・五〇〇頁に及ぶ報告書(本編、別冊、要旨)には、すべての国・私立の療養所への訪問調査に基づく被害実態調査報告や胎児標本調

査結果報告に加え、「無癩県運動」や断種・堕胎、沖縄・奄美地域におけるハンセン病政策、旧植民地、日本占領地域におけるハンセン病政策等、多岐に渡る報告が収められ、「医学・医療界にとどまらず、法曹界、教育界、宗教界、福祉界、マスメディアなど、国の誤ったハンセン病強制隔離政策に果たした各界の責任をほぼ網羅的に検証」(同書・本編「はじめに」)している。

同『最終報告書』本編には、仏教、キリスト教、新宗教、神道を視座に、四十頁で構成される「宗教界」の報告がある。その「まとめ」には、隔離政策の存続に果たした「宗教」の責任の検証に基づき、再発防止に向けて、「療養所に布教に入る宗教者と、それを受け入れる入所者が、「救うも

の」と「救われるもの」という関係を翻し、共に人間を非人間化するものから解放されていくという対等な関係を紡いでいくことにある」と提言し、宗教者、宗教団体の取り組みの方向は、ハンセン病国賠訴訟(熊本地裁)での最終弁論で弁護団が提起した「救済の客体から解放の主体へ」という言葉に示唆される、と結んでいる。この二十年間、大谷派の「ハンセン懇」は、様々な課題に直面しながらも、この「まとめ」の言葉を肝に銘じて、取り組みを継続してきたと言える。

真宗関係の会とその課題

「宗教界」の報告文の最後の頁には、「全国国立ハンセン病療養所 所内宗教団体・宗教別入所者数一覧 二〇〇四年八月調」が付されている。そこには、仏教教団(真宗、日蓮宗、禅宗、真言宗等)、キリスト教(カトリック教会、聖公会等)、新宗教(天理教、金光教等)、神社という、各療養所の入所者と関わりのある宗教団体と入所者数が掲載されている。調査当時、入所者数三四三六名のうち三〇一九名が何らかの宗教や所内の宗教団体と関わりをもち、その三十%を超える人が自らの宗教として真宗をあげていたという。

真宗に着目すれば、白道会(松丘保養園・七十一名)、真宗慈光会(東北新生園・十五名)、

崇信教会(栗生楽泉園・一〇五名)、真宗報恩会(多磨全生園・六十七名)、駿河真宗講(駿河療養所・四十二名)、真宗同朋会(長島愛生園・一六一名)、浄土真宗法話会(邑久光明園・一〇三名)、真宗同朋会(大島青松園・四十四名)、真宗同志会(菊地恵楓園・三五五名)、真宗同愛会(星塚敬愛園・一九二名)、浄土真宗(奄美和光園・三名)が営まれていたことが知られる。

しかし、この調査からすでに二十年を経過し、これら各療養所における同朋の会の会員数は激減し、会の継続的な運営は、事実上困難となり、多くの会が活動を終えているのが現状である。入所者の方々の「生きた証」である、これらの会の活動を記録した日誌類や会誌等、関連資料の散逸が懸念される。その他にも、会で使われていた仏具、經典類等の保存管理と、その継承が、喫緊の課題である。

資料調査班の予備調査

こうした課題を認識し、真相究明部会の資料調査班では、二〇二三年度の活動として、邑久光明園、長島愛生園、多磨全生園、菊池恵楓園及び、すでに資料を移管されている大谷派寺院(東京都内)への予備調査を実施した。

二〇二三年十二月二十六日、資料調査班の調覇浩氏とともに、長島愛生園を訪れ、同園の真宗会館(浄土真宗本願寺派)で開催された藤井善(伊奈教勝)師の追弔法会と山陽教区の関係者三十名ほどが集まった交流会に参加した。同園の真宗同朋会の方で、交流会に参加できるのは、鈴木幹雄



真宗報恩会に残る報恩講に関する記録

氏お一人になったという。交流会終了後、同会館事務室に保管されていた真宗同朋会編集の『白道』の残存状況を予備調査した。

続いて邑久光明園を訪れ、青木美憲園長、屋猛司自治会長、山本英郎副会長、そして調覇氏と、宿泊施設

の台所で夕食を取りつつ交流の時を過ごした。会長・副会長からは、数十年にわたる療養所での暮らしの苦労、「らい予防法」廃止の闘争運動など、様々な貴重なお話を聞かせていただいた。翌日、光明園内の本願寺派教会を訪れた。浄土真宗法話会会長の吉田藤作さんから、七十五年近く過ごした療養所での苦労や、社会で受けた偏見と差別についてお話を聞き、事務所に保管されている記録類を予備調査した。

さらに、二〇二四年三月五日、東京都内にある東京教区存明寺(酒井義一住職)を訪れた。同寺院には、多磨全生園内の真宗会館和光堂で営まれてきた真宗報恩会に関する記録、資料類が移管されている。かつては百名を超えた会員も五名となり、参加可能な方は一人となり、会を閉じることとなったという。二〇二三年九月十二日に最後

の法要が勤められ真宗会館に安置されていた本尊、法名軸類や日誌等を、同会と長く関わってこられた酒井住職が預かることとなったという。数箱の段ボールに収められた資料類には、真宗報恩会の会長の日誌等、貴重な記録類の存在が確認された。

おわりに

今後は予備調査を終えたこれらの同朋の関連資料の本調査を実施し、それらの保存や活用について、検討していく必要があるだろう。また、他の諸同朋の会についても本調査に向けての予備調査に着手し、関連資料の残存状況を把握しなければならぬ。こうした地道な調査を進めるなかで収集し得た資料に基づきながら、入所者の方々の生きた証である同朋の会の営みの歴史、さらには入所者の方々にとつての真宗信仰の意味を明らかにすることが重要である。

二〇二四年二月、邑久光明園でお会いした吉田藤作さんの計報に接した(享年九十六歳)。調査から約一カ月後のことであつた。本格的な資料調査が、急がれる所以である。

【お知らせ】吐鳳忌法要

とほうき

日時 2025年10月29日(水) 午後1時
場所 名古屋教区第14組圓周寺
講師 和泉眞藏氏(ハンセン病専門医)
主催 吐鳳忌法要実行委員会
お問い合わせ 圓周寺 TEL:052-444-0024

青少幼年センターニュース

青少幼年センター

ホームページ <https://jodo-shinsyu.info/oyc/>

YouTube 青少幼年センターチャンネル



「2024年度ひとりからはじめる子ども会講習会 in 大垣教区」開催

五月二十三日・二十四日に大垣別院を会場に「ひとりからはじめる子ども会講習会 in 大垣教区」を開催しました。

この講習会は、これから子ども会をはじめてみたいという方や、これからも子ども会を続けていきたい方、新型コロナウイルスの影響でストップしていた子ども会をもう一度はじめてみたいという方などに集まっていただき、具体的に体験や実践を通じて、私ひとりから無理なくはじめられる子ども会を共に学ぶ講習会です。

■日程

今回、大垣教区からは十四名の参加をいただきました。私も講習会スタッフでありながら、自教区開催ということでスタッフ兼参加者として関わりました。

一日目、まずは体験編として実際に模擬子ども会を開催します。スタッフ一名が住職役となり、他のスタッフ、参加者は子ども役として子ども会に参加します。その後、技能編としてゲームの紹介や絵本の読み聞かせ、紙芝居の実技

を学びます。そして各班に分かれての座談会。

それぞれの現場の状況や自分が得意なもの、やってみたいことをそれぞれが深く考えます。こういう場合、私たちはできない理由を色々と考えてしまいがちですが、みんなの意見を聞きながら出来る方法を考えてみる。そうすることで、ほんやりしていたイメージを少しずつ具体的な形にしていきます。

初日の最後には、自坊での子ども会開催をイメージして、実際にチラシを作りました。

二日目は、実践編として前日にイメージした



講習会参加者

子ども会を班ごとに形にして、参加者の前で実践します。そして、全体の振り返りをしたあと、子ども会開催についての情報提供を行い、講習会は終了となりました。

■自分ができていることをやってみる

日程を終えて印象に残ったのは、班別の座談の際、これまで子ども会の経験がないお寺の方が、「一緒におやつを食べながら子どもたちの話を聞きたい」とおっしゃったことです。私は、お寺の子ども会がゲームや工作などのレクリエーションを企画して、子どもたちを楽しませてあげなければいけないと思っていました。しか



ゲーム講習

しませようとするだけの会は疲れるのです。そうなることと長続きはしません。ですから、自分ができることをやってみる。まずは場を開いておしゃべりするだけでもいい。それも一つの子どもの形。

そして子どもがその場を信頼してくれれば、子どもから今度はあれがしたい、これがしたいという提案をしてくれるはず。遊びのツールに頼らなくても、子どもなりの発想で楽しく過ごすはず。遊びについては大人よりも子どもの方がよっぽど上手なので。私ひとりから無理なく始められる子ども会とは、そういうことではないかと気づかされました。

■大垣教区の特徴

大垣教区は、古くから夏休みのラジオ体操の後の「お勤めのお稽古が盛んな地域」ということが特徴です。お寺の境内がラジオ体操の会場

となり、その後そのまま本堂に子どもたちが集まって「正信偈」のお稽古をするというもので、教区内の半数以上のお寺で長年行われてきました。それゆえに、地域の子どもの距離感が近いということがありました。

しかし、だんだんと子どもが少なくなり、ラジオ体操も日数が減り、共働き世帯が増えたため、子どもたちはラジオ体操が終わるとすぐに帰らなければならなくなりました。併せて親世代のお寺への関心の度合いが低くなっていることから、近かった子どもとの距離がだんだんと遠くなりつつあります。結果、お勤めのお稽古を行うお寺も、そこに集う子どもたちも少なくなりました。大垣教区は兼職のお寺が多く、そのことも理由のひとつだと感じます。

■子どもたちを名前と呼んであげたい

私の自坊でも、私が小学生の時まではお勤めのお稽古を行っていましたが、いつの間にか止めてしまいました。

十年ほど前に私がお寺に戻ってきて、教区の青少年教化に関わる中で、自分の子どもが小さいうちに子ども会をやりたいという思いから、自坊での「法忍寺子ども会」を始めることになりました。始めた当初は、自分の子どもの友達

を中心にくさんの子どもがお寺に集まってくれました。しかし、軌道に乗ってきたと感じていたところで新型コロナウイルスの影響により、活動はすべて中止。気づけばコロナ下の数年の間に我が子は中学生になり、子ども会に来てく

れていたその同級生たちも部活や塾で忙しくなりました。

コロナが明けて、子ども会をリスタートさせたい思いはありましたが、頼みの我が子やその同級生はなかなか来てくれそうにありません。田舎ですから子どもの数も少なく、子ども会を再開しても来てくれる子はいるか不安で不安で仕方ありませんでした。

今回の講習会の中で、「たくさんの人数が来てくれることは嬉しいが、そうすると一人ひとりとなかなかゆっくり出会えず、名前がわからない」ということがある。一人ひとりと出会い、子どもたちを名前と呼んであげたい」という話を聞きました。名前を呼ばれるということとは、その存在を認めてもらいたい、「あなたはここに居てもいいんだよ」という居場所を与えてもらうこと。そして名前を呼び合うということは、お互いの存在を認め合い、共に尊いのちを生きていることを証明することです。私たちは、これまでそうやってたくさんの人の名前を呼び、呼び返されてきたはず。そう思うと、子ども会に来てくれる子は減ったけれども、来てくれる子どもの名前を呼び、共に出遇っていきたくて思われます。

参加人数の多い少ないによって気分も上がったり落ちたりということは今後も続くでしょうが、それでも細く長く続けていければと思います。

(青少年センタースタッフ・皆田世英)

児童教化のページ

シリーズ 真宗大谷派における児童教化

—子どもたちとともに、今までもそしてこれからも—

ち か い

- 一、私たちは、仏の子どもになります。
- 一、私たちは、正しいおしえをききます。
- 一、私たちは、みんな仲よくいたします。

大谷派児童教化連盟

593

児童教化指導者研修会に参加して

東北教区山形第4組廣善寺 佐々木智悠

五月二十九日から三十日の二日間にわたり、山形教会にて、講師として近藤章氏（九州教区西心寺）をお招きし、「はじめての児童教化」というテーマで大谷派児童教化連盟主催の児童教化指導者研修会が開催されました。参加者は山形県内の青少年教化に携わっている方々をはじめ、児童教化に興味がある方々。また、県内のみならず、遠近各地よりたくさんの方々が足を運び、近藤先生の講義を通して各々の胸の内を語り合える時間となったと感じます。

私はこのたび初めて児童教化指導者研修会に参加しました。今までも、教区や本山の青少年教化の事業に携わってきいてはいません。そして、山形地区児童教化連盟（以下、地区児連）に所属していません。また、自坊で子ども会といった活動を行っていませんし、子どもと一緒に暮らしているわけでもないの、「子ども」という存在に対しては少し距離のある生活を日々送っています。た

まに先輩や友人からお声掛けいただき、教区の青少年関連の事業に参加したり、研修会に顔を出すといった経験はありません。

今回、地区児連の「山形の地に児童教化を広げたい」という願いや、研修会のテーマが「はじめての児童教化」ということもあり、お誘いをいただき参加することとなりました。しかし、今までも自発的というよりは、消極的、受動的な姿勢であったり、児童教化という分野には熱意よりは苦手意識を持ちながら参加してきたように思います。このような思いを持っている私が恐縮ではあります。研修を受けて感じたことを書きたいと思います。

今回のテーマにもあります「児童教化」という言葉を聞いて感じるのは、子どもを育て教育する意識が高そうな方々が携わっているのではないかと。また、熱意ある方々の集まりで堅苦しそうだなというイメージを持っている感じました。そう感じさせるの

は「教化」という言葉に引っ張られているからだと思います。「教化」という言葉から連想されるイメージは、どうにかして教えないといけない、伝えないといけないという使命感のようなものを背負わされているように感じます。「児童教化」に限らずですが、「教化」ということからできれば距離を置きたいというのが本音です。その対象が子どもとなると大人以上に、果たして伝わるのだろうか、つまらないとそっぽを向かれるのではないかとその場に足を踏み出すことを躊躇してしまいます。

しかし、近藤先生は「児童を教化するのではなく、児童に教化される者として小さい人の前に立つ」と語られました。また、「人は名譽心というものを持っていて、教化してやっつけている姿勢に立っている」とご指摘されました。私は教化しないといけない使命感を背負わされているようにだと語っておきながら、実は自身が教化する者だと一段高い所に上がって、子どもを見下ろしていたのではないかと先生の言葉から感じさせられました。また、近藤先生は子どものことを「小さい人」と語られているのが印象的でした。そう感じる

のは「子ども」であること、「大人」であることを無意識にどこかで区別してしまっていて、「大人」である私とは違う別の生き物のように見てしまっていたのかもしれない。

今回の研修会の開催趣旨に

「よのなかは（こども）と（も）とこども」でできている」

（富安陽子「もとこども」ポプラ社）
という言葉が紹介されており、ハッとさせられました。当たり前のことですが「子ども」も「大人」も同じ「人」です。しかし大人になるにつれその事実をどこかで切り離して過ごしているのではないのでしょうか。

私は子育てを経験したことはありますが、私の考えは、子どもは大人が守るものであり、手をかけ教養育て上げるものだと思っていました。それが大人としての義務であり、善い行いという認識です。ですので、子ども側から教えられる、教えるでもらおうという発想はありませんでした。しかし、大人が教えなければならぬと思いを向ける子どもも同じ人であり、意思があります。良い教化者でありたいという自分の理想に囚われ一人歩きしてしまい、目の前の小さい人を見ているようでどこか

違うところを見ていたのかもしれない。

地区児連からの指導者研修会への案内文に「小さい人たちと場を共にする中で気付かされるのは、彼ら自身が場を求めていること」とありました。自分が小さい人になにかを伝えたいという思いと「お寺に遊びに行ってもいい?」「次はもつと面白くしてね!」というような小さい人からの問いかけがあった時にはじめて、小さい人に目を向けることができるのではないのでしょうか。そのような出あいから児童教化をやりたい心、子どもに出あいたいと思える自分にも出あえるということなのかと感じました。

講義の中で近藤先生は「ひとりからは始める子ども会」について話されました。この言葉は、子ども一人からでも始められる子ども会といったスローガンだと思っていましたが、先生は「ひとりとは私のことです」と述べられました。教化ということに關して、他者にばかり目を向けていましたが、場を共にし、人と向き合えるようになる中で、私自身も教化されている身だと気づかされるのだと、そして児童教化の場は与える

のでなく、人との出あいから開かれていくのだと感じます。

二日間研修会に参加しましたが、それでもまだどこか児童教化には苦手意識や難しさを感じており、すぐに取り組むことには戸惑いがあります。しかし、近藤先生や参加された方々の思いや経験談を聞いていく中で、自分と向き合うきっかけとなり、出発点に立ったように思います。

最初は子どものためにある研修会だと思い参加しましたが、研修会を終えた今では、私一人のための研修会でもあったと気づかされました。



講義に聞き入る参加者

『いのち』

編集／大谷派児童教化連盟

私たちの「いのち」はどこから出発し、どこへ向かって生きているのでしょうか。仏さまは「いのち」について、単に生まれてから死ぬまでを教えているのではありません。私たちが生まれるには、それ以前の長い長い「いのち」の歴史があるのです。（本文より）

◆A5判／99頁 定価：600円

真宗大谷派青少年センター

〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地 真宗教化センター しんらん交流館
TEL:075-354-3440 FAX:075-371-6171 E-mail:oyc@higashihonganji.or.jp

いのち



真宗大谷派

今月のお寺

228

照覚寺

(新潟教区中越十一組)

新潟県長岡市与板町広野五〇七番地

住職 竹内清史



住職の清史さん(右)と母の幸子さん(左)

だれでも立ち寄れる居心地の良い場所
与板城下町の面影を残す町並みと信濃川や緑地など自然に親しめる、歴史と自然が豊かな与板町広野にある照覚寺。その本堂が、毎週日曜日・月曜日の朝七時から、私設図書館「ののさま文庫」となり、仏教、小説、絵

本など幅広いジャンルの本が置かれる。取材した日は「ののさま文庫」に加え、二つの移動書店も照覚寺の本堂と駐車場に出店。元氣な挨拶があらこちらから響き、子ども

たちが宝物探しのように本を手にとる姿が見られ、「この本好き」とワクワクした弾んだ声が聞かれた。

「ののさま文庫」が始まったきっかけは新型コロナウイルスだった。このままでは寺に誰も入らず一年が終わってしまうという危機感があり、二〇二二年八月から、住職・清史さんの母・幸子さんが古本を買い集め、三段カラーボックスに詰め込んで提供する形から「ののさま文庫」は始まった。当初は開けていても



本を手思いの時間を過ごす

一人も来ない日がほとんどだった。チラシを配ったり、インスタグラムを使ったり、地方雑誌の取材も受けたりした。地道に活動を続けて徐々に知られるようになり、今では小さなお子さんからご年配の方まで老若男女沢山の方で賑わっている。

「ののさま文庫」での体験を通じて、住職の清史さんは「寺」としての原点に立ち返ったという。様々な媒体はあくまでツールであり、最後は「人」であると噛み締める。寺で開催したマルシェに来た方が、開法会に来るかと言えそうではない。一時の盛り上がりではなく、何度も足を運び、何回もお話をし



「本のあみだくじ」。当たった番号でおすすめの絵本に出会える

うしたら来てくれた人が居心地よく過ごせるか」を常に考えているという。

お寺をより身近に感じてもらうために、十月末から十一月半ばごろに行うおみがきは、図書館に足を運ばれる方にもお声がけしており、お内陣や仏具に触れる体験が喜ばれているという。

また今年から、お寺の空間を心に明かりを灯す活動の場にしてほしいという願いから、本堂の貸し出しを行う「照覚寺本堂ひろばのののさま照らす」を始めた。するとすぐに、図書館に通う方から「本堂で勉強を教えたい」と要望があり、「寺子屋るりあん」が始まった。さらに「お寺ってどんなことをしているのだろうか?」と興味を持たれ、清史さんへのインタビュイベントなども開催されている。

いつでもそこにあり、いつでも迎え受け入れてくれる。そこへ行けば話を聞いてもらえる。そんな安心できる場所を直に感じ、人と人との温かな繋がりに触れさせていたのだ。

(新潟教区通信員・本多真淑)

書棚

◇書籍の内容や本のお求め等については、直接お問い合わせ先へお願いいたします。

◇本棚への掲載を希望する方は、左記までご連絡ください。

東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
『真宗』係

TEL 075-371-5099

『大無量寿経聞思録』第一巻

曾我量深『大無量寿経聴記』を手がかりとして

伊東慧明 講述

盛岡鸞恩 編

◆A5判 341頁・2,500円(税込)

経 寿 量 録 大 無 思 録 聞 思 録

第1巻

曾我量深
『大無量寿経聴記』を
手がかりとして

講述 伊東慧明

講話」の記録です。

三部経を読む習慣が薄れつつあった北東北の地で、「私について『大経』を知らずに生涯を終えるのか」という一住職の嘆きを受けて始まったこの講座は、十五年にわたり全十八講に及ぶ貴重な法座となりました。

本書は、伊東慧明師が、一九九四年九月、盛岡の岩手真宗会館にて開講された「大無量寿経

聞に歩かされてきた人生の道の背後に、仏の深い願いが静かに息づいていたことに気づかせる、かけがえない出会いの場となりました。

慧明先生は二〇一三年十月十二日にご西帰されました。この記録をご生前にお目にかけることができなかったことを悔やみつ、十二回忌を迎える今年、ようやくその「第一巻」を「聞思録」としてまとめ、尊前に呈することとなりました。教恩に感銘し、全国の法友に公開いたします。私たちは過つことなく如来回向の往生道に立ち、これからも聞思の歩みを重ねてまいります。

【発刊予定・価格について】

全5期10年での発刊予定(1期4巻)

※1期予約販売特別価格…8,000円(送料別)
15年間18講に及ぶ貴重な法座の記録を、5期に分けて順次発刊いたします。各期とも読みやすい分量で構成し、『大無量寿経』の教えを丁寧に伝えています。

(岩手真宗会館)

【お問い合わせ】

岩手真宗会館

〒020-0862 岩手県盛岡市東仙北2丁目2-45

TEL 019-635-9161

FAX 019-656-8882

E-mail daikyo@ganjuhjo.com



念珠かけた歸命の姿尊かり

昔から良品安価で御信用いただいて居る

東本願寺前

念珠
製造販売

北川与三兵衛商店

千六〇八二五 京都市下京区下珠数屋町通烏丸東入

電話 〇七五—三七一—二五五六番
FAX 〇七五—三五二—三三六六番

御法儀
要式
御披
露記
結婚
祝用
念用

内仏打敷、中啓
散華焼香
經本仏具
其他仏様用百貨

弊店は真宗正式念珠を代々伝承製作の老舗

伝道ボックス90

生も死も引き受けて

—南無阿彌陀仏のいのちに生きる—

延塚知道 著

南無阿弥陀仏(本願)
の教えに生き、死を
受け入れていくとは
どのようなことなの
か——。

著者の父や師、郷里の念佛者たちとの出会い、そして妻の看病と別れの中で交わされた言葉をとおして尋ねる一冊。



新書判 80頁 定価：330円(税込)

当派の寺院・教会からのご注文は2割引となります。



東本願寺出版

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189 FAX.075-371-9211

詳しい書籍情報・試し読みは

東本願寺出版

檢 索

愛知県 長泉寺様

本堂屋根改修工事(チタンカナメ段付本瓦葺き)

想いを匠技でかたちにする

カナメの社寺建築



株式会社

カナル

社寺新築・改修工事

チタン屋根 / 地震台風対策
太陽光発電など

本社

栃木県宇都宮市平出工業団地38-52

TEL.028-663-6300

名古屋支店

TEL.0586-71-2882

岡山支店

TEL.086-245-2541



ものづくり日本大賞受賞
〈経済産業大臣賞〉
「チタン カナメ段付本瓦葺き」

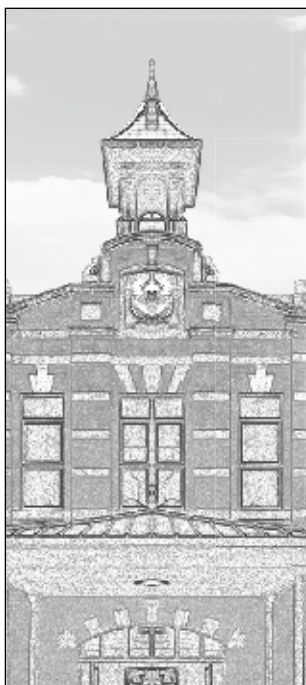


GOOD DESIGN
カナメ 千タン段付木瓦葺き

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Be Real
寄りそう知性

大谷大学



2025年度後期 生涯学習講座 受講生募集中!

対面講座・オンデマンド講座(録画配信)の両方を開講する
講座につきましては、両方で受講可能です

- | | |
|---------------------------------------|-----------|
| 📖 シリーズ 親鸞の和讃に学ぶ
『正像末和讃』- 皇太子聖徳奉讃 - | 講師: 松金 直美 |
| 📖 仏教とヒンドゥー教 | 講師: 山本 和彦 |
| 📖 織田信長と仏教 | 講師: 川端 泰幸 |
| 📖 『歎異抄』に学ぶ(4) | 講師: 山田 恵文 |

※他にも多彩な講座を開講しています

講座の詳細やパンフレットの
閲覧・請求につきましては
HPをご覧ください



問い合わせ先: 教育研究支援課
TEL: 075-411-8161

大谷大学博物館 2025年度特別展

物語を伝える絵とことば

大谷大学博物館・図書館には、物語を伝える奈良絵本(室町末期から江戸中期にかけて制作された彩色絵入り本)や、絵巻物、写本、版本などが多く所蔵されています。また仏教の教えやそのありがたさを物語でわかりやすく伝える本もあります。これらは、大谷大学の前身である江戸時代の東本願寺学寮時代から数百年かけて収蔵されてきたものです。

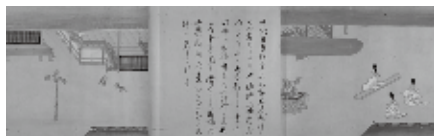
本展覧会では、大谷大学が所蔵する文学作品を中心に、面白く、あるいは悲しい物語の世界の魅力を、色とりどりの「絵」や、記された「ことば」を通じてご紹介します。



釈迦の本地(奈良絵本)



鉢かづき(奈良絵本)



日吉山王利生記絵巻

会 期: 2025年10月11日(土)~11月29日(土)

時 間: 10:00~17:00(入館は16:30まで)

休 館: 日・月曜

※10/13(月)、10/26(日)、11/3(月)、11/9(日)、11/23(日)、11/24(月)は開館

観 覧 料: 一般・大学生: 500円

※「『真宗』を見た」と受付でお申し出いただいた方は、無料で入館いただけます。

問い合わせ先: 大谷大学博物館 TEL: 075-411-8483



〒603-8143 京都市北区小山上総町 入学センター

TEL: 075-411-8114 FAX: 075-411-8160

E-MAIL: nyushi-c@sec.otani.ac.jp



大谷大学

大学HPはこちらからご覧になれます ▶





同朋大学

～共なるいのちを生きる～

2026年度 入学者選抜試験日程

<文学部・社会福祉学部>

選抜試験	出願期間	試験日	合格発表
学校推薦型選抜 (指定校1期)	11月1日(土)～11月7日(金)[消印有効] 〈窓口受付:11月10日(月) 10:00～16:00〉	11月15日(土)	12月1日(月)
学校推薦型選抜 (公募1期)			
総合型選抜 (個別課題取組型2期)	エントリー:10月6日(月)～10月15日(水)[消印有効] 〈窓口受付:10月16日(木) 10:00～16:00〉 課題・出願:11月1日(土)～11月7日(金)[消印有効] 〈窓口受付:11月10日(月) 10:00～16:00〉		

<大学院 人間学研究科 仏教人間学専攻>

選抜試験	出願期間	試験日	合格発表
〈博士前期課程〉 大学院選抜1期 【仏教文化分野】	9月24日(水)～10月8日(水)[消印有効] 〈窓口受付:10月9日(木) 10:00～16:00〉	10月18日(土)	11月1日(土)

※上記以外の試験制度もあります。詳しくは同朋大学Webサイトをご覧ください。

同朋大学仏教学会2025年度大会

記念講演

講 題: 『親鸞に至る“不二”の思想史』

講 師: 織田 顕祐 先生
(同朋大学元特任教授・真宗大谷派教学研究所所長)

日 時: 2025年11月8日(土) 13:30～16:00

会 場: 同朋大学成徳館J502教室

※記念講演の前に鶴見晃教授による研究発表
『「愚禿鈔」深心釈について』(13:35～14:05)があります。
記念講演は、その後(14:20～15:50)に行います。



織田 顕祐 先生

[お問い合わせ先]文学部仏教学科研究室 052-411-1426

「私と同朋大学」シリーズは今回、休載です

同朋大学

E-MAIL:nyushi@doho.ac.jp

〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町 7-1

TEL:052-411-1247

FAX:052-411-4124

WEB:https://www.doho.ac.jp/

■文学部
仏教学科／人文学科

■社会福祉学部
社会福祉学科
心理学専攻／社会福祉専攻／
子ども学専攻

■大学院
人間学研究科 仏教人間学専攻
仏教文化分野／人間福祉分野／臨床心理分野

■別科
仏教専修

最 新 刊

『俱舎論』とその諸註釈における三世
実有論批判の研究——仏教の時間論——

那須円照著

定価12100円(税込)

アビダルマ仏教の最盛期の学説綱要書である世親著『俱舎論』と、そのインドの諸註釈書の中の、「随眠品」における一切有部の三世実有論を紹介し、それに対する経量部の立場からの批判について論じた箇所を解説・和訳する。

鏡如上人(大谷光瑞)及び
籌子裏方年譜

赤松徹眞編

定価15400円(税込)

本年譜は、本願寺教団の管長・宗主として多角的な視野と構想により教団を統率・運営し、内閣顧問などにより就任した鏡如上人(大谷光瑞)と、総裁として各地の仏教婦人会の結成や活動に尽力した籌子裏方の事績を編纂したもの。

東西本願寺120のちがい

鎌田宗雲著

定価3300円(税込)

主に前半は、東西本願寺の組織・寺紋・莊嚴・勤式・作法など一〇項目のちがいを紹介する。後半は、歴史的な視点も踏まえて東西本願寺のちがいに着目し、主にお東騒動に関して時系列で振り返りながら解説する。

値遇のころ

川添泰信著

定価1100円(税込)

本願寺の新報、または小冊子や、大学における揭示伝道の標語の解説などをまとめた法話集。主な内容として、お辞儀と礼拝／蜘蛛の手と合掌／「僭越」と「ジョーク」／蜘蛛の糸／安穩の未来／浄土真宗のお彼岸／この世にて／など。

永田文昌堂 〒600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031

ご本山三折ご本尊専用お厨子



純金箔押タイプ(お道具極上Aセット)

現代の住宅事情に合わせたオリジナルデザインの「御本山三折ご本尊専用お厨子」を製作致しました。このお厨子が、新しく御本尊をお迎えして始まる「お内仏を中心とした真宗ご門徒の生活」のスタートに少しでもお役に立てましたならば、幸いに存じます。

(税込)

仕様	本体のみ	お道具仕様	お道具付
金箔押仕上	40,000	極上A 彫入 花瓶 2.0寸	69,000
		極上B 無地 花瓶 2.2寸	56,000
		特製 新型無地 花瓶 2.2寸	51,000
		上製 略型火立 花瓶 2.2寸	44,000

※お道具セットには、透かし土香炉 1.8寸、木燭は 1.4寸が含まれております
※お道具はお厨子限定の特別ご奉仕セットのため、お道具セットのみの販売は致していません

【お厨子仕様】

- 原産国：日本製
- 木地主材料：木質製
- 塗：黒塗(別台部分ため色仕上)
- 箔押タイプ：純金一号箔押仕上
- 寸法：幅48cm×奥行21cm×高さ25cm

※三折ご本尊(台付)はご本山にご申請ください



極上B お道具



特製お道具



上製お道具



御誂えの京佛具を真心こめてつくる店

京佛具大塚

〒600-8150 京都市下京区東洞院通上珠数屋町角

☎075-351-6553 FAX 075-341-0414

御連絡はフリーダイヤル ☎0120-20-6553 どうぞ

民藝 他力の美

太田浩史



若松英輔氏
(批評家・随筆家)
推薦

東本願寺出版

民藝の美、
それは他力の美。
美しくしかならないもの。

〈若松英輔氏(批評家・随筆家)推薦!〉

「この本で著者が、読み手と分かち合おうと試みているのは、回答めいた事実ではなく、民藝とともに生きることによって見えてくる地平であり経験である」(本文寄稿より)

A5変形判／オールカラー・96頁 定価：2,200円(税込)

東本願寺出版
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189 FAX.075-371-9211

詳しい書籍情報・
試し読みは

東本願寺出版

検索

当派の寺院・教会からの
ご注文は2割引となります。

民藝 他力の美

太田浩史 著

民藝とゆかりの深い富山県南砺市に生まれ育った太田浩史氏(大福寺住職)が、柳宗悦をはじめ民藝運動に参加した様々な人物のエピソードも交えた29のエッセイで、「他力の美」である民藝の世界を案内する一冊。



営業担当が
直接お伺いして
お洗濯、お直し承ります

社内の和裁士が一点一点丁寧に
お直しと仕上げをしております

お気軽にお問合せください



下記QRコードより
お友達登録



株式会社

和光舎

法衣・御袈裟・打敷の丸洗いと補整・仕立

本社 〒612-8081 京都市伏見区新町3丁目487
Tel: 075-612-7988 Fax: 075-612-5760
三条工房 〒604-8132 中京区丸屋町156 cent-livie三条高倉1F



0120-45-4435

総合相談室

ご利用になる皆様の個人情報に最大限の注意を払い運営しておりますので、安心してお気軽にご相談ください。
なお、宗務所に面談にお越しになる際は事前にご予約をお願いします。

● 組織部(教務) 総合相談室 TEL: 075-371-9184 ● 結婚に関する問い合わせは vivaha@higashihonganji.or.jp



結婚相手求む

● 寺院に迎えたい 〈家族構成〉

神奈川県	男性	44歳	両親
富山県	男性	43歳	
岐阜県	男性	39歳	両親・妹弟
岐阜県	男性	49歳	
岐阜県	男性	54歳	母・弟
岐阜県	男性	39歳	
愛知県	男性	55歳	
愛知県	男性	41歳	
愛知県	男性	49歳	
愛知県	男性	46歳	
愛知県	男性	39歳	
三重県	男性	44歳	両親
三重県	男性	53歳	両親
大阪府	男性	38歳	両親
大阪府	男性	43歳	

北海道	女性	37歳	
山形県	女性	34歳	両親
新潟県	女性	38歳	
富山県	女性	50歳	
石川県	女性	35歳	
福井県	女性	39歳	両親
岐阜県	女性	40歳	両親
愛知県	女性	30歳	
滋賀県	女性	28歳	母・妹
大阪府	女性	38歳	両親
大阪府	女性	38歳	

● 寺院に入りたい

東京都	男性	49歳
-----	----	-----



入寺希望

秋田県	男性	58歳	有教師・東北教区希望
東京都	男性	56歳	有教師
東京都	男性	42歳	有教師
東京都在住	男性	43歳	有教師
東京都在住	男性	50歳	有教師・東京教区希望
埼玉県	男性	47歳	有教師
新潟県	男性	45歳	有教師・新潟県希望
石川県	男性	66歳	有教師・富山、能登、金沢教区希望
岐阜県	男性	75歳	有教師・岐阜県希望
愛知県	男性	70歳	有教師・愛知県、岐阜県、三重県希望
京都府在住	男性	53歳	有教師
大阪府	男性	67歳	有教師・大阪府、奈良県希望
大阪府在住	男性	53歳	有教師・大阪教区希望
鹿児島県	男性	46歳	有教師



法務員・寺務員求む

東京都／埼玉県／埼玉県 證大寺／神奈川県／新潟県／新潟市 真宗寺／
新潟市 超願寺／岐阜県／愛知県／大阪府／長崎県 法務員募集 詳細は面談で



後継者求む

北海道	有教師	50歳まで
北海道	有教師	25歳まで
北海道	有教師	要運転免許・40代まで
北海道	有教師	性別、単身・家族連れ不問・69歳まで
秋田県	有教師	性別、単身・家族連れ不問・50代くらいまで
山形県	有教師	性別、単身・家族連れ不問・50代くらいまで
宮城県	有教師	単身・家族連れ不問
長野県	有教師	50代まで
長野県	有教師	
新潟県	有教師	
新潟県	有教師	家族連れ・40代まで
新潟県	有教師	65歳くらいまで・要運転免許
東京都	有教師	50代まで・要運転免許
富山県	有教師	家族連れ・50代くらいまで
富山県	有教師	家族連れ・40代くらいまで
富山県	有教師	70歳くらいまで・要運転免許
石川県	有教師	40代くらいまで
石川県	要運転免許	性別、単身・家族連れ不問・50代くらいまで
石川県	有教師	家族連れ・40代まで
石川県	有教師	家族連れ・50代まで
石川県	有教師	家族連れ
福井県	有教師	家族連れ・60代くらいまで
岐阜県	有教師	20～40代まで
岐阜県	有教師	家族連れ・50代まで
愛知県	有教師	家族連れ・40代くらいまで・要運転免許
愛知県	有教師	家族連れ
愛知県	有教師	家族連れ
愛知県	有教師	30代くらい
愛知県	有教師	家族連れ・40代くらいまで
愛知県	有教師	45歳まで
三重県	有教師	男性・40代まで
三重県	有教師	
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	50代くらいまで
滋賀県	有教師	家族連れ
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	家族連れ
滋賀県	有教師	家族連れ・40代まで
滋賀県	有教師	要運転免許・65歳まで
福岡県	有教師	家族連れ
福岡県	有教師	家族連れ・60代くらいまで
長崎県	有教師	家族連れ
鹿児島県	有教師	独身・30代まで
鹿児島県	有教師	



法務員・手伝い希望

長野県	男性	有教師
三重県	男性	有教師 愛知県希望
滋賀県	男性	有教師 滋賀県・京都市希望
福岡県	男性	



↑ 「後継者相談」「入寺希望」について、宗派公式ウェブサイトでも情報登録並びに情報提供に関するお申し込みを受け付けています。

第14回世界同朋大会への参加にあたって、ツアーを企画しましたので是非ご参加ください！

〔Aコース（10日間）〕 エミレーツ航空で行く 世界が憧れる情熱の街 リオ・デ・ジャネイロ

期 間：2026年8月26日(水)～9月4日(金)【関西空港発着】

〔Bコース（12日間）〕 一生に一度は訪れたい天空都市 ゆったりマチュピチュ2連泊

期 間：2026年8月26日(水)～9月6日(日)【成田空港発着】



リオ・デ・ジャネイロ (コルコバードの丘)



マチュピチュ

コース名		発着地	ツアー代金（冥加金30,000円含む）	
A	エミレーツ航空で行く 世界が憧れる情熱の街 リオ・デ・ジャネイロ	関西空港	2名1室利用	730,000円
			1名1室利用	856,000円
B	一生に一度は訪れたい天空都市 ゆったりマチュピチュ2連泊	成田空港	2名1室利用	1,180,000円
			1名1室利用	1,340,000円

※別途、燃油サーチャージ及び空港諸税のほか、海外旅行傷害保険料等が必要となります。

■申込期間：2025年9月1日(月)～2026年3月31日(火)

■申込方法：以下のいずれかの方法にてお申し込みください。

- ①『第14回世界同朋大会参加申込書』（宗派公式ウェブサイトよりダウンロードできます）に必要事項をご記入いただき、近畿日本ツーリスト京都支店まで郵送いただくか、FAXまたはメールに添付して送信。
- ②宗派公式ウェブサイト掲載の『第14回世界同朋大会参加申込フォーム』より必要事項を送信。



宗派公式
ウェブサイト

ツアー申し込み・お問い合わせ

近畿日本ツーリスト株式会社 京都支店

〒604-8186 京都府京都市中京区車屋町通御池下ル梅屋町358 アーバネックス御池ビル西館8F

TEL：075-221-7401（10時～17時） FAX：075-223-5192

E-mail：kyoto2@or.knt.co.jp

大会に関するお問い合わせ

組織部（国際室）

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地

TEL：075-371-9187（9時～17時） FAX：075-371-9194

E-mail：kokusai@higashihonganji.or.jp

組 織 部

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9187 FAX.075-371-9194

第14回世界同朋大会のご案内

第14回世界同朋大会は、開教区における宗祖親鸞聖人の御誕生850年と立教開宗800年の慶讃法要お待ち受け大会を兼ねて開催し、「南無阿弥陀仏 一人と生まれたことの意味をたずねていこう」をテーマに掲げています。

特に南米開教区・ブラジルを開催地とするこの大会は、「仏教東漸」の理のごとく、浄土真宗が遙か海を越え、パラグアイやアルゼンチンを含む南米の地に根付き、花開いてきた証を確かめる場でもあります。

また、サブテーマを「同朋（ボン・アミーゴ）—多様性を生きる—」として、異なる言語、文化をはじめ、性別、年齢、価値観、能力など、多様な個性や背景をもつ私たちが、それぞれの違いを尊重しながら、ともにお念仏の大地に立つ「同朋」であることを、語らいと交流を通じて確かめていきます。

■大会期間：2026年8月29日(土)～30日(日)

■会場：ブラジル連邦共和国パラナ州〈南米開教区〉
レカントカタラタス テルマス リゾート エ コンベンション

■テーマ：南無阿弥陀仏
一人と生まれたことの意味をたずねていこう

■サブテーマ：同朋（ボン・アミーゴ）—多様性を生きる—

■講師：マイケル・コンウェイ氏（大谷大学准教授）

■定員：200名（日本参加者80名、海外開教区参加者120名）

■参加費加金：30,000円（旅行代金は別途）



大会日程

8月29日（土）	
9:30	海外開教区慶讃法要お待ち受け大会（開会式）
11:00	お待ち受け大会記念講演
14:00	各開教区からの提言
15:30	グループディスカッション
17:30	晩餐会（各開教区出し物）

8月30日（日）	
9:30	おあさじ
10:30	講義
11:30	閉会式

※日程は変更する場合があります

首都圏教化推進本部(東本願寺「真宗会館」)

〒177-0032 東京都練馬区谷原1丁目3番7号
TEL.03-5393-0810 FAX.03-5393-0814

首都圏教化推進本部職員(法務員)募集要項

このたび、首都圏教化推進本部職員(法務員)を下記のとおり募集いたします。

首都圏には、地方から転居されたご門徒が多くおられますが、中には郷里の寺院との関係が失われてしまうケースも近年少なくありません。

そのような状況にあって、首都圏における教化の総合施設である東本願寺真宗会館では、私事をご縁としながらご門徒と寺院の関係を継続させていくとともに、真宗会館における諸行事をととして真宗の教えを届けていくことが願われています。

熱意を持って、法務をはじめ諸行事に従事いただける方を募集しております。ぜひご応募ください。

- 1 募集人員 若干名
- 2 勤務先 首都圏教化推進本部(東本願寺真宗会館)※雇用後、勤務場所の変更はありません。
- 3 勤務 8時30分から17時まで。土曜日、日曜日及び祝日の勤務となりますが、1週間に2日の定例休日を与えます。
※所定外労働及び休日勤務があります。
※上記定例休日の他に年次有給休暇、夏期休暇、特別休暇等があります。
- 4 業務内容 東本願寺真宗会館における崇敬・給仕等の業務並びに首都圏における教化推進のための法務 ※雇用後、従事すべき業務の変更はありません。
- 5 雇用期間 2026年4月1日から2029年3月31日まで
※契約更新する場合がありますが、60歳を超える契約は行いません。また、更新の上限年数はありません。
- 6 試用期間 採用後、3ヵ月間を試用期間とする
- 7 給与 ①初任給 230,000円 ②他に諸手当及び各種保険、役宅あり
- 8 応募資格 ①高等学校卒業又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者
②真宗大谷派の教師(2026年4月1日までに修得見込みの者を含みます)
- 9 応募必要書類 ①履歴書・自己紹介書(所定の用紙に自筆のこと)
②写真(上半身で3ヵ月以内に撮影のものを履歴書に添付のこと)
③最終学校卒業証明書又は卒業見込証明書
④最終学校成績証明書
※①の所定用紙は、宗務所総務部及び各教務所に備付のもの、もしくは宗派ウェブサイトより印刷したものをを使用すること。
※③及び④の証明書については、大学卒業後に専門学校を卒業した場合等、最終学歴と最高学歴が異なる場合はそれぞれの証明書を提出してください。
※真宗大谷派教師資格修得見込者については、上記の他「大谷派教師課程単位修得見込証明書」を同封してください。
- 10 採用試験の流れ (1) 応募書類提出
①提出期間 2025年9月11日(木)から2025年11月18日(火)まで
②提出先 〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7(TEL:03-5393-0810(直通))
首都圏教化推進本部(東本願寺真宗会館)法務員募集係
※書類は、直接持参もしくは郵送(簡易書留可・11月18日必着)のこと(持参の場合、平日9時から17時まで)。
(2) 適性検査(SPI3・テストセンター形式)
①受検期間 応募書類提出から2025年11月28日(金)まで
※応募書類提出後、弊派より受検案内メールを送信します。
(3) 筆記試験及び個別面接
①期日 2025年12月9日(火)
②内容 筆記(真宗・仏教に関する基礎知識等)、声明作法、個別面接
③会場 東本願寺真宗会館
※詳細は、応募書類提出期間終了後に通知します。

真宗本廟奉仕のご案内

「同朋会館」は、全国から集う方々が寝食を共にし、親鸞聖人の教えを聞き、真宗門徒の生活を習う聞法の道場です。ご門徒・お友達を誘って、真宗本廟奉仕にご参加ください。

お申し込みは上山希望日の40日前までに行ってください。

詳細・お申し込み…



テーマのある真宗本廟奉仕のご案内

◆真宗本廟お煤払い奉仕団 申込締切：2025年11月9日(日)

2泊 12月19日(金)～12月21日(日)／**1泊** 12月19日(金)～12月20日(土)

歳末、両堂の1年分の埃を竹の棒と大きな団扇を使って外へ扇ぎだし、新しい年をお迎えする準備を行う「お煤払い」に参加する奉仕団です。

◆真宗本廟おみがき奉仕団 申込締切：2026年1月22日(木)

2泊 3月2日(月)～3月4日(水)／**1泊** 3月2日(月)～3月3日(火)

春の法要を迎えるにあたって、真宗本廟内の仏具のおみがきを両堂の縁で行います。

【参加費】〈2泊3日〉18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円

〈1泊2日〉13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円

※上記は大人(15歳以上)の場合です。

●真宗本廟奉仕施設の利用について…



●「縁」一納骨・帰敬式同朋会館宿泊プラン…

納骨・帰敬式でのご参拝の際、同朋会館にご宿泊いただけます。



[研修部(同朋会館) TEL: 075-371-9185]

現在受付中の募集・開催要項等

詳細は本誌もしくは宗派公式ウェブサイトをご覧ください。

◆南米開教区開教使募集 (本誌7月号119頁)

随時募集(派遣者が定員に達した時点で募集を終了いたします)

組織部(国際室)【TEL: 075-371-9187／E-mail: kokusai@higashihonganji.or.jp】





(お経のみのお扱いです)



種別	志納額	場所	読経の扱い
賀慶殿別座読経	70,000円以上	賀慶殿	別座読経
茶所別座読経	50,000円以上	茶所仏間	別座読経
本堂読経	7,000円以上	本堂	一座読経
茶所読経	5,000円以上	茶所仏間	一座読経
御廟読経	5,000円以上	御廟	一座読経
総経	1,000円以上	御廟	夕刻に総じて読経

●団体参拝について…



●仏前結婚式について……



●施設利用について…



〔大谷祖廟事務所 〒605-0071 京都市東山区円山町477
TEL : 075-561-0777 FAX : 075-533-0780 〕



真宗教化センター しんらん交流館のご案内

教化情報の発信・交流の拠点として、人と人をつなぐ地域に開かれた行事を開催しています。

東本願寺日曜講演 9時30分～11時

10月5日 教学研究所研究員 松下俊英氏「懺悔を喚び起こすもの」

10月19日 東京教区因速寺住職 武田定光氏「往生論」は「時間論」なり」

10月26日 大谷大学准教授 マイケル・コンウェイ氏

「鈴木大拙と浄土真宗

—その妙好人論と英訳『教行信証』の特色を中心に—

◆月刊法話『ともしび』 2025年10月号「功德は行者の身にみえり」一楽真氏（大谷大学長）

1部130円（本体119円＋税10％・送料別）

お申し込みは東本願寺出版（TEL：075-371-9189）まで



しんらん交流館定例法話 お勤め14時～、法話14時30分～15時30分（毎月12日・27日は10時～）

※毎週火曜日・10月12日休会。その他都合により休会する場合があります。

10月の日程はこちら…



電話相談「東本願寺 いのちとこころの相談室」 毎週木曜日13時～17時

皆さまのお悩み・ご相談をお聞きます。 TEL：075-371-9280

東本願寺文庫・絵本コーナー 9時～16時30分 ※絵本コーナーの閲覧は17時まで

書籍・絵本の閲覧、貸し出しを行っています。

浄土真宗ドットインフォ（しんらん交流館ホームページ）のご案内

お寺のサポート情報・浄土真宗の教えにふれる情報を配信しています。



〔真宗教化センター しんらん交流館 〔開館時間／9時～17時 休館日／毎週火曜日〕
〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地
TEL：075-371-9208 メール：shinrankoryukan@higashihonganji.or.jp 〕

大谷祖廟（親鸞聖人御廟所）のご案内

大谷祖廟は親鸞聖人の御廟所であり、聖人をはじめ、本願寺の歴代、全国各地の寺院・ご門徒の方々のご遺骨が納められています。

開門：5時 閉門：17時

納骨・永代経・読経受付時間 8時45分～11時30分／12時45分～15時30分

※11時30分～12時45分までは受付を休止しています。

永代経法要 毎日14時30分～15時 定例法話 毎月13日・28日（8/13、9/28、11/28、12/28は休止）
永代経法要後

のう こつ えい たい きょう
納骨・永代経



※外装を除く、高さ15cm・直径9cm（3寸壺以下）を超える容器であり、1種から4種で納骨のお申込みをされる場合は、納骨体数毎に志納額に20,000円を加算してご志納いただきます。

※改葬（墓じまい等）の場合は容器の大小問わず、志納額に20,000円を加算してご志納いただきます。

※納骨された遺骨はお返しすることができません。

種別	志納額	読経	お取り扱い
別座1等	1,000,000円以上	別座読経	納骨当日、抹茶接待 毎月の命日・春秋彼岸会・盂蘭盆会に永代読経 祥月命日・春秋彼岸会に30年間案内状送付
別座2等	500,000円以上		納骨当日、抹茶接待 毎月の命日・春秋彼岸会に永代読経 祥月命日・春秋彼岸会に20年間案内状送付
別座3等	300,000円以上		納骨当日、抹茶接待 毎月の命日・春秋彼岸会に永代読経 祥月命日・春秋彼岸会に10年間案内状送付
別座4等	150,000円以上		毎月の命日に永代読経 祥月命日に10年間案内状送付

種別	志納額	志納額 【容器大／改葬】	読経	お取り扱い
1種	100,000円以上	120,000円以上	一座読経	毎月の命日に永代読経。祥月命日に10年間案内状送付
2種	70,000円以上	90,000円以上		祥月命日と彼岸会（春または秋）に永代読経
3種	40,000円以上	60,000円以上		彼岸会（春または秋）に永代読経
4種	20,000円以上	40,000円以上		永代経のお取り扱いはございません

かいそうのうこつ し 改葬納骨志

「墓じまい」等に伴って、改葬されたご遺骨を受付する際に、「法名」・「俗名」・「命日」等の情報が一切不明の場合、改葬納骨志20万円以上のご志納により受付させていただきます。

詳細内容を確認させていただくため、改葬納骨志を希望される場合は、事前に大谷祖廟事務所までお問い合わせください。

〈本山永代経・御影堂読経の事前の手続き〉

- ①読経志をお手次(所属)の寺院・教会をとしてお納めいただき、所定の手続きの上、「永代経御紐解證」・「御影堂読経参詣證」の発行を受けてください。
- ②「永代経御紐解證」・「御影堂読経参詣證」発行の際に配布される参拝案内冊子『参拝される皆さまへ』(真宗本廟収骨・読経取り扱い表付)を参照の上、参拝される3週間前までに宗派公式ホームページから届出いただくか、事前届出ハガキに参拝予定日・参拝人数等をご記入いただき、参拝接待所までご送付ください。
※本山永代経四等、本山永代経五等、御影堂読経は当日申込できます。

〈本山永代経・御影堂読経の当日の受付〉

「永代経御紐解證」または「御影堂読経参詣證」を必ず持参の上、受付時間内に参拝接待所にて手続きください。

《完全別座読経について》 読経志100万円以上お納めいただきますと、親族のみでの別座にて読経の上、希望数のお斎の接待があります(要事前申込)。

《別座読経について》 読経志を20万円以上お納めいただきますと、別座(同日に他に別座の申込がある場合はご一緒の案内)にて読経の上、上記のとおりお斎の接待があります(要事前申込)。

※完全別座、別座の受付は10時までとなります。当日は10時までに受付をお済ませください。

き きょう しき 帰敬式



帰敬式は、仏・法・僧の三宝に帰依し、仏弟子となる大切な儀式です。

真宗本廟では、基本的に毎日、午前と午後に執行しています。

当日の受付 参拝接待所にて9時から受付をいたします。

お 礼 金 お一人10,000円(20歳以下5,000円)

- お斎について……………
精進料理のお膳を書院でお召し上がりいただけます。



- 真宗本廟団体参拝について……………
諸殿拝観や清掃奉仕等を通して、真宗の教えにふれていただくことを願いとしています。



晨朝法話・真宗本廟法話

晨朝【阿弥陀堂及び御影堂】毎日7時～ 晨朝法話【御影堂】毎日7時30分頃～

真宗本廟法話【視聴覚ホール・御影堂・参拝接待所仏間】

通常：10時10分～／13時10分～ 逮夜日(12日・27日)：13時10分～

御命日(28日)：9時30分～

法要・法話のご案内…



参拝接待所ギャラリー 9時～16時 入場無料

「親鸞聖人のご生涯」(常設展) 「涉成園展」9月5日(金)～10月28日(火)

涉成園(枳殻邸)

開園時間 〈3月～10月〉9時～17時(受付は16時30分まで)

〈11月～2月〉9時～16時(受付は15時30分まで)

庭園維持寄付金 一人700円以上(高校生・中学生300円以上、小学生以下無料)



涉成園

〔本廟部・参拝接待所 TEL：075-371-9210〕

真宗本廟 参拝接待所のご案内

真宗本廟収骨・読経・帰敬式・お斎・団体参拝の受付を行っています。〔開所時間／9時～16時〕
〔真宗本廟開門・閉門時間／3月～10月：5時50分～17時30分、11月～2月：6時20分～16時30分〕

各種お申し込み受付時間・お取り扱いの予定はこちら……………



真宗本廟収骨



法義相続・本廟護持を願いとする相続講金を12万円以上お納めいただきますと、その御扱いとして、御影堂の宗祖親鸞聖人御真影のもとに、ご遺骨をお収めさせていただきます。

事前の手続き

- ①相続講金をお手次ぎ(所属)の寺院・教会をとおしてお納めいただき、所定の手続きの上、「真宗本廟収骨證」の発行を受けてください。参拝接待所では、「収骨證」発行の手続きをしておりません。必ず事前手続きを行ってください。
- ②「収骨證」発行の際に配布される参拝案内冊子『参拝される皆さまへ』(真宗本廟収骨・読経取り扱い表付)を参照の上、参拝される3週間前までに宗派公式ウェブサイトから届出いただくか、事前届出ハガキに参拝予定日・参拝人数等をご記入いただき、参拝接待所までご送付ください。
※「収骨證」1枚につき、1体のお収めとなります。

当日の受付

- ①ご遺骨に「収骨證」を添えて、受付時間内に参拝接待所にて手続きください。
- ②ご遺骨は参拝接待所にて7cm角の桐箱にお移し替えいたします。お収めしたご遺骨はお返しできません。また桐箱の容量を超えるご遺骨はお返しすることになります。

《お斎付真宗本廟収骨について》

※相続講金を1体につき30万円以上お納めいただきますと、規定人数分(3名)のお斎の接待があります(要事前申込)。
詳細は教務所または参拝接待所までお問い合わせください。

本山読経



本山永代経

御影堂にて永代経^{おひもとぎ}の御紐解(初めての読経)を行い、『法名記』に登載します。
以後、春・秋彼岸会中にお勤めする「永代経総経」にご案内いたします。

御影堂読経

御影堂にて一座読経いたします。受付時に法名紙をお渡しし、代表者に法名を清書いただきます。法名紙は読経の際(焼香時)に広蓋に納めていただきます。

仏間読経

参拝接待所仏間にて一座読経いたします。参拝接待所受付に当日お申込みください。

※都合により読経場所を変更する場合があります。

種別	読経志	読経扱	お斎接待
本山永代経	別座特等	1,000,000円以上	完全別座
	別座一等	500,000円以上	別座
	別座二等	300,000円以上	別座
	別座三等	200,000円以上	別座
	四等	100,000円以上	一般
	五等	50,000円以上	一般
御影堂読経	30,000円以上	一般	なし
仏間読経	10,000円以上	随時	なし

月刊 どうぼう

同朋

仏教がみちびく、あらたな人生

まずは、お寺で1冊ご購入ください!

◇ご門徒へのプレゼント、法要・行事の記念品としてもご利用ください。

「同朋」は生活の視点から、
浄土真宗に親しむための月刊誌です



10月号特集 アボリショニズム——今「廃」すべきこと

〈寄稿〉

歴史から見るアボリショニズム／肥後本芳男（歴史学者）

根本からシステムを問う思考／浅沼優子（ライター・翻訳家）

死刑廃止後の社会を想像／創造するために

／坂上 香（ドキュメンタリー映画監督）

浄土教における「断」／青柳英司（真宗大谷派教学研究所研究員）

〈インタビュー〉

差別廃絶という希望——『国境廃絶論』の訳者二人に聞く

／梁 英聖・柏崎正憲

生きていこうと思ったら、核兵器は廃絶する以外にない。

／箕牧智之（日本原水爆被害者団体協議会代表委員）

巻頭インタビュー 伊左治佳孝（水中探検家）

魅力ある連載をご紹介します



信侶
名倉 幹

後生の一大事を心にかけて
ニューヨークから開教便り



哲学者
谷川嘉浩

哲学者と僧侶
「私」をめぐる往復書簡



大谷大学名誉教授
ロバート F. ロース

地獄・極楽を読み解く
新解「往生要集」

社会学者
下地ローレンス吉孝



ジャーナリスト
竹田ダニエル

対話
生きづらいこの世界でも

お問い合わせ

◆FAX・電話・ハガキ・メール、またはオンラインショップでお申し込みいただけます。

◆代金は、『同朋』と共に送付いたします振込用紙にて、お支払いください。

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る

東本願寺出版『同朋』係

TEL : 075-371-9189 FAX : 075-371-9211

メール : books@higashihonganji.or.jp

息できる風景

マンガ家
森泉岳士

小説「一切の幸せ」

小説家
岩川ありさ

日々平熱のソウル

ミュージシャン
中田 亮

ぺコロスのほどけてしゃがんで

マンガ家
岡野雄一

●毎月1日発行

●購読料 年間 4,400円（税込・送料込）

1冊 440円（税込・送料別）

●A4判 フルカラー60頁

2025年7月号から価格改定

敬 弔

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

(2025年7月16日～2025年8月15日受付まで)

住職及び前住職

東京教区 東京1組 敬覺寺

住 職 浅 野 彰 夫

2025・6・14寂(91歳)

東京教区 東京8組 法專寺

前住職 伊 藤 明 磨

2025・6・7寂(92歳)

富山教区 第10組 唯見寺

住 職 神 保 慶 恵

2023・9・26寂(84歳)

富山教区 第2組 祥雲寺

住 職 土 屋 廣 暎

2025・7・4寂(77歳)

能登教区 第11組 善正寺

前住職 慈 者 龍 夫

2025・6・19寂(80歳)

岡崎教区 第1組 光圓寺

前住職 太 田 昭

2025・6・13寂(97歳)

坊守及び前坊守

東京教区 長野5組 宝栄寺

前坊守 三 浦 雍 子

2025・4・30寂(80歳)



輪島塗記念品・調度品・什器・家具・修理品など承ります。



輪島塗本舗

うるし屋

電話 0768-23-0188 フリーダイヤル 0120-23-0856 FAX0768-23-0089
〒928-0001 石川県輪島市河井町4部99(朝市通り東) 営業時間AM8:30～PM17:00 毎週日曜日定休

まずは電話、メールなどでご連絡ください。
日程相談の上参上いたします。

毎月全国へ出張訪問中

寺宝 正絹金襴緞子
文化財修理修復表装

※正絹本金の場合はお見積りください



表具幅 83 cm まで 正絹

44 万円 (税込)

表具幅 70 cm まで 正絹

38 万円 (税込)



そろそろ
修理

御絵伝・七高僧・聖徳太子

杉本工芸

自社工房内で一貫作業いたします

〒602-8268 京都市上京区山里町 236-1

TEL075-417-6966

sugikake@gmail.com

見積無料

三重教区長島組 善明寺
 三重教区員弁組 了圓寺
 三重教区中勢2組 円成寺
 京都教区長浜第13組 長圓寺
 京都教区長浜第16組 憶念寺
 京都教区長浜第20組 宗念寺
 京都教区長浜第20組 宗念寺
 京都教区長浜第20組 玉泉寺
 京都教区長浜第21組 願正寺
 京都教区長浜第21組 願正寺
 京都教区近江第6組 本誓寺
 大阪教区第4組 敬正寺
 大阪教区第19組 妙善寺
 九州教区豊前中津組 忍誓寺
 九州教区豊前中津組 忍誓寺
 九州教区福岡組 光西寺
 九州教区福岡組 光西寺
 九州教区三井西組 蓮明寺
 九州教区三井西組 蓮明寺
 九州教区山門西組 常樂寺
 九州教区熊本中組 真宗寺
 九州教区熊本中組 真宗寺
 九州教区熊本西組 正福寺
 九州教区熊本西組 正福寺
 九州教区熊本南組 清傳寺
 沖縄準開教区 東本願寺沖縄別院

功章旌賞

特殊大功章

小原意精

第一功章

幡谷淳弥 石川 聖

第三功章

黒江 健

第五功章

岡崎康祐 安田 聡

第七功章

蓬莢英隆 稲田智宏

特殊旌賞

山崎 超

一等旌賞

幡谷淳弥 石川 聖

三等旌賞

黒江 健

五等旌賞

岡崎康祐 安田 聡

七等旌賞

蓬莢英隆 稲田智宏

長崎 湊
 瀬木慶樹
 藤本啓太
 木原大雅
 藤澤 聡
 三浦朝慧
 三浦廣祥
 野寺繕至
 伊吹奏蓮
 伊吹逢成
 野田郁人
 榛間愛羽
 林 涼風
 神崎絵美
 神崎 耀
 高木亜由美
 高木 楓
 溝邊南生
 溝邊観大
 江島菜々
 佐藤惟人
 佐藤称人
 松本夏子
 松本 花
 有馬應人
 伊波詩音

懲 戒

下記のとおり懲戒に処せられたから審問条例第45条第2項により、これを掲示する。

2025年6月27日

宗務総長 木 越 渉
記

- 1 氏 名 友時 健太郎
 - 2 僧籍及び身分 四国教区東讃第1組 福善寺 衆徒
 - 3 懲 戒 軽懲戒5年
 - 4 判定確定日 2025年6月26日
- 以 上

下記のとおり懲戒に処せられたから審問条例第45条第2項により、これを掲示する。

2025年7月22日

宗務総長 木 越 渉
記

- 1 氏 名 島地 証
 - 2 僧籍及び身分 北海道教区第12組 願舟寺 衆徒
 - 3 懲 戒 軽懲戒3年
 - 4 判定確定日 2025年7月20日
- 以 上

下記のとおり懲戒に処せられたから審問条例第45条第2項により、これを掲示する。

2025年7月22日

宗務総長 木 越 渉
記

- 1 氏 名 當麻 円俊
 - 2 僧籍及び身分 大阪教区第10組 唯徳寺 衆徒
 - 3 懲 戒 軽懲戒4年6ヵ月
 - 4 判定確定日 2025年7月20日
- 以 上

下記のとおり懲戒に処せられたから審問条例第45条第2項により、これを掲示する。

2025年8月18日

宗務総長 木 越 渉
記

- 1 氏 名 佐々木 周恵
 - 2 僧籍及び身分 北海道教区第10組 互願寺 住職
 - 3 懲 戒 譴責に処する
 - 4 判定確定日 2025年8月17日
- 以 上

大垣教区第1組 乗蓮寺	藤 樹	九州教区鹿児島組 願生寺	大丸泰知
大垣教区第5組 永勝寺	細川 憐	(8月7日)	
大垣教区第5組 永勝寺	細川 峻	東北教区花巻組 順覺寺	橋本 健
大垣教区第5組 専徳寺	大橋智大	東北教区仙台組 東漸寺	那波菜月
大垣教区第8組 速行寺	楠 悠晟	東北教区仙台組 東漸寺	那波永都
大垣教区第8組 正光寺	木塚 龍	東京教区東京5組 圓林寺	早川義陽
大垣教区第10組 蓮正寺	高木悠佑	東京教区東京5組 神足寺	伊東歌奈子
岡崎教区第17組 西岸寺	松林 花	東京教区東京5組 神足寺	伊東良花
岡崎教区第17組 西岸寺	松林 欽	東京教区三浦組 圓照寺	稲垣尚之
岡崎教区第24組 法春寺	大野達真	東京教区湘南組 三寶寺	目崎あゆみ
岡崎教区第34組 常光寺	鈴木朔太郎	東京教区湘南組 三寶寺	目崎見尋
名古屋教区第3組 善徳寺	森山希理子	新潟教区第10組 光圓寺	佐々木実音
名古屋教区第3組 善徳寺	森山正陽	新潟教区第15組 願勝寺	長尾蓮華
名古屋教区第3組 正願寺	佐藤蓮暁	新潟教区第15組 願勝寺	長尾宣輝
名古屋教区第15組 福壽泉寺	竹腰光真	新潟教区第17組 慶應寺	松原典子
名古屋教区第20組 善行寺	泉 澄宗	新潟教区第17組 慶應寺	松原陽向
名古屋教区第25組 盛願寺	吉田 奏	富山教区第11組 稱永寺	蜷川琢己
三重教区員弁組 蓮敬寺	木村亜蓮	富山教区第11組 淨徳寺	佐々 蓬
三重教区員弁組 行順寺	田代義親	富山教区第1組 等源寺	逸見愛華
京都教区長浜第19組 勝圓寺	八木旺佑	富山教区第1組 等源寺	逸見孝平
京都教区長浜第19組 了福寺	松見直生	能登教区第13組 明願寺	藤井 熙
京都教区山城第2組 法光寺	春日燈真	能登教区第13組 明願寺	藤井 馨
京都教区山城第3組 永福寺	片岡夏海	金沢教区第8組 西方寺	西方 士
京都教区山城第3組 永福寺	片岡顕信	金沢教区第9金沢組 福千寺	梅木佑心
京都教区近江第2組 養蓮寺	日野正受	金沢教区第9河北組 法觀寺	松岡紗耶
京都教区近江第7組 榮正寺	山田瑛太	福井教区第1組 妙樂寺	熊谷 奨
京都教区近江第7組 榮正寺	山田大登	福井教区第8組 淨福寺	小谷奏真
京都教区近江第11組 善敬寺	大照敏都	福井教区第9組 稱名寺	菅原 希
京都教区近江第11組 妙徳寺	種村隆樹	岐阜高山教区第1組 淨安寺	大館昂綱
京都教区因伯組 照明寺	澤田悠仁	岐阜高山教区第4組 専慶寺	西部 嗣
大阪教区第3組 玉泉寺	木村香子	岐阜高山教区第7組 珉徳寺	炭竈雄大
大阪教区第3組 長源寺	藤枝正遼	大垣教区第7組 蓮徳寺	梶井佑惺
大阪教区第4組 淨永寺	矢幡奈緒	大垣教区第12組 唯願寺	大橋夏生
大阪教区第4組 淨永寺	矢幡碧蓮	大垣教区第12組 唯願寺	大橋明真
大阪教区第4組 恩敬寺	安城 道	大垣教区第16組 皆善寺	寺倉研吾
大阪教区第4組 恩敬寺	安城もも	岡崎教区幸田組 廣福寺	橘 明寛
大阪教区第10組 南林寺	箕林久美子	岡崎教区第21組 泉正寺	境 穂花
大阪教区第10組 南林寺	箕林悠介	岡崎教区第21組 泉正寺	境 照樹
山陽四国教区第4組 善覺寺	日野麻衣	岡崎教区第35組 西念寺	植田顕真
山陽四国教区第4組 善覺寺	日野真慈	名古屋教区第3組 久證寺	名和香奈
九州教区三井西組 應真寺	佐藤幹太郎	名古屋教区第3組 久證寺	名和利華子
九州教区八女組 光讚寺	亀井 深	名古屋教区第3組 久證寺	名和皆生
九州教区山門西組 靈鷲寺	八崎洸太	名古屋教区第3組 入明寺	石黒晴臣
九州教区大牟田三池組 少林寺	葦原茉桜	名古屋教区第6組 敬應寺	普光紗生
九州教区大牟田三池組 少林寺	葦原理緒	名古屋教区第10組 良満寺	日比 優
九州教区大牟田三池組 忍信寺	塚寄麻佑	名古屋教区第12組 寶珠寺	加藤幹大
九州教区大牟田三池組 忍信寺	塚寄唯人	名古屋教区第12組 正念寺	林 佐恭
九州教区熊本北組 善證寺	福田咲音	名古屋教区第21組 萬念寺	鬼頭凜花
九州教区熊本北組 善證寺	福田彩花音	名古屋教区第27組 長樂寺	藤井優心

岡崎教区第31組 了見寺

鬼頭 衛

特命教会主管者代務者

九州教区京都組 門司教会

信國眞一

教 師**権大僧正**

草野顕之

僧正

照山大智 河野 篤 中村 淳 森 清行

権僧正

滝澤 究 旭野康裕 朽木隆治 麻生孝祥

大僧都

照山誓子 小川如俊 石川 聖 成田淳一 福島栄寿

英 亮 小塚 順 伊藤明磨

権大僧都

橘 智慧 鳥宮恵朋 北條誓生 佐竹 融 但馬 普

宮島 聡 稲田智宏 慈者龍夫

僧都

酒井 純 小原意潤 新野和暢 大塚俊慶 奥村 優

権僧都

阿部 諒

律師

安田 聡 照光雅能 小澤顕成 山本 靖 長野摂受

土屋廣暎

権律師

田村大輔 大谷 求 宮川摩耶

法師位

竹山章子 黒江 健 水谷智導 神保慶恵

入位

尾谷美香 白石直一 佐々木自然 前田祐能 長よしえ

道宗直昭 寶達 心 高橋利行 廣瀬 潤 岡崎眞実

佐々木真応 南部茉莉 多賀みちよ 岡崎 慈

三谷太道

学 階**講師**

草野顕之

擬講

福島栄寿

学師

酒井 純 新野和暢

教 導 発 令

橘 幸子 坪内秀樹 梶原敬一

真宗本廟教化教導に任命します

(2025年8月2日)

得 度

(8月4日)

北海道教区第20組 龍玄寺

小松良介

東北教区秋田県中央組 善法寺

寺崎健翔

東北教区秋田県南組 本明寺

菊地 華

東北教区山形第4組 即圓寺

水澤龍大

東北教区山形第4組 即圓寺

水澤千遥

東北教区盛岡組 淨園寺

亀山智陽

東北教区花巻組 永林寺

百濟眞裕

東北教区花巻組 永林寺

百濟龍樹

東北教区浜組 光景寺

國田静江

東北教区浜組 光景寺

國田應樹

東京教区茨城2組 光円寺

藤 一真

東京教区栃木組 明覺寺

小野 諒

東京教区埼玉組 西廣寺

佐々木晴

東京教区埼玉組 西廣寺

佐々木弘希

東京教区千葉組 明淨寺

和光アレックス

東京教区東京1組 本昌寺

中村美里

東京教区東京1組 本昌寺

中村祐貴

東京教区東京1組 本昌寺

中村昌吾

東京教区東京1組 本昌寺

中村晴大

東京教区東京6組 勸勝寺

黒田千歳

東京教区山梨組 正宗寺

村田憲彦

東京教区山梨組 正宗寺

村田友規子

新潟教区中越12組 専正寺

大瀧敬惺

新潟教区第6組 得願寺

秋山未織

新潟教区高田13組 恵光寺

上野咲結

富山教区第7組 勝傳寺

上野 新

富山教区第8組 本淨寺

橋本 泉

富山教区第8組 本淨寺

橋本 菊

能登教区第2組 明照寺

磯村 蓮

能登教区第4組 柳泉寺

谷内 泉

能登教区第5組 光琳寺

木越理久

能登教区第10組 往還寺

上田陽子

能登教区第10組 往還寺

守田敬三

能登教区第13組 養泉寺

藤原伽帆

能登教区第13組 養泉寺

藤原由依

能登教区第14組 稱蓮寺

尾ヶ寄七珠

能登教区第14組 稱蓮寺

尾ヶ寄亮南

金沢教区第5組 恵真寺

中村唯吹

福井教区第4組 明源寺

鷹尾まどか

福井教区第4組 明源寺

鷹尾潤生

福井教区第6組 法敬坊

波佐谷純汰

岐阜高山教区高山2組 往還寺

岩佐和也

岐阜高山教区高山2組 往還寺

内記 尋

岐阜高山教区高山2組 往還寺

内記 建

岐阜高山教区第1組 常誓寺

真道宗則

岐阜高山教区第12組 玄養寺

大高佳輝

期限 2026年7月31日まで	
出版部次長	永井道文
宗会事務局次長の兼務を命じます	
東京教務所次長	大江覚成
東京宗務出張所次長の兼務を命じます	
組織部次長	内麻顕祐
行財政改革推進本部次長の兼務を命じます	
出版部主事	館 頌子
財務部主事の兼務を命じます	
宗会事務局主事補	服部 湜
総務部主事補の兼務を命じます	
研修部書記	山本由惟
財務部書記の兼務を解きます	
総務部書記	藤波龍曇
研修部書記	石川七歩
財務部書記の兼務を命じます	
総務部書記	井上 誓
行財政改革推進本部書記の兼務を解きます	
研修部主事	坂田雄生
推進員室掛を命じます	
解放運動推進本部嘱託	近藤順子
女性室スタッフを命じます	
財務部書記	日野大修
財産管理室掛を命じます	
大谷祖廟事務所主事	達 顕信
大谷祖廟及び東大谷墓地に関する総合整備事業事務室掛を命じます	
研修部次長	高月沙生子
婦敬式実践運動推進事務室主任を命じます	
研修部主事	坂田雄生
婦敬式実践運動推進事務室掛を命じます	
企画調整局参事	小谷 仁
真宗教化センター寺院活性化支援室主任（寺院運営活性化支援担当）を命じます	
企画調整局参事	小谷 仁
真宗教化センター寺院活性化支援員（寺院運営活性化支援担当／過疎・過密地域寺院教化支援担当）を命じます	仁禮秀嗣
修練道場指導に任命します	
狐野やよい 橘 佑輝 関 隆徳 平原晃宗 小松 肇 木本 芳 佐伯 顕 馬場 亮 比叡谷紗碧	
修練道場指導補に任命します	
笹谷太一朗 佐々木良志	
岐阜別院列座に任命します	
南米開教監督部書記	貝辨一道
南米開教区開教使の兼務を命じます	
(以上、8月1日)	

高名和丸 酒井一明 下谷泰史 大橋秀暢 荒谷正裕 上田幸一 石川誠文	
宗務審議会「真宗本廟崇敬護持のための財源の検討に関する委員会」委員を委嘱します	
(8月5日)	
組織部書記	小松宏耀
東京教務所書記に任命します	
本廟部主事	中川正見
宗会事務局主事の兼務を解きます	
研修部主事	坂田雄生
宗会事務局主事の兼務を命じます	
出版部書記	内田文雄
企画調整局書記	松室慈寿
宗会事務局書記の兼務を解きます	
総務部書記	藤波龍曇
財務部書記	安井壽海
宗会事務局書記の兼務を命じます	
研修部書記補	但馬摩耶
組織部書記補	高藤 縁
出版部書記補	嶋田美羽
企画調整局書記補	篠岡 果
宗会事務局書記補の兼務を命じます	
(以上、8月8日)	

藤浪 遊	
修練道場指導に任命します	
不破英明 結柴依子 加藤雅輝 三島見らん 栗栖寂人 武宮創志 海 紀磨 野原量慧 松葉淳子 田中義大	
修練道場指導補に任命します	
(以上、8月17日)	

住職代務者

東京教区長野1組 龍澤寺	平出栄昭
東京教区長野3組 長徳寺	成田 修
富山教区第10組 唯見寺	神保孝順
富山教区第2組 光仁寺	白藤香志郎
三重教区三講組 真正寺	川瀬香里
三重教区三重組 三嶽寺	星川佳信
京都教区長浜第13組 光専寺	廣瀬順子
京都教区若狹第1組 西廣寺	佐々木完裕

特命住職

小松大聖寺教区第1組 福井別院橋立支院	篠岡誓法
---------------------	------

特命住職代務者

九州教区福岡組 要心寺	信國眞一
-------------	------

京都教務所次長に任命します	
大谷祖廟事務所主事	坂田雄生
研修部主事に任命します	
宗会事務局主事	番坂啓史
組織部主事に任命します	
九州教務所主事	浅野恵史
出版部主事に任命します	
新潟教務所主事補	波戸本大介
大谷祖廟事務所主事補に任命します	
大阪教務所主事補	服部 滉
宗会事務局主事補に任命します	
教育部主事補	青木梨紗
九州教務所主事補に任命します	
総務部書記補	藤波龍曇
総務部書記に任命します	
大谷祖廟事務所書記	恵木淳子
本廟部書記に任命します	
財務部書記	高月都志輝
南米開教監督部書記	齊藤行人
大谷祖廟事務所書記に任命します	
大谷祖廟事務所書記	井上俊介
内事部書記に任命します	
教育部書記補	泉原 来
教育部書記に任命します	
財務部書記	石川七歩
北海道教務所書記	佐々木義樹
研修部書記に任命します	
本廟部書記	宇佐美摩耶
組織部書記補	小松宏耀
組織部書記に任命します	
大谷祖廟事務所書記	日野大修
出版部書記	藤田樹心子
岡崎教務所書記	安井壽海
財務部書記に任命します	
金沢教務所書記	藤岡優香
企画調整局書記に任命します	
財務部書記	宮尾悠樹
東北教務所書記に任命します	
東京教務所書記補	松井天志
東京教務所書記に任命します	
研修部書記	倉見 悠
新潟教務所書記に任命します	
福井教務所書記補	船山祥汰
福井教務所書記に任命します	
九州教務所書記	藤本千紘
岡崎教務所書記に任命します	
東京教務所書記	山月千怜
九州教務所書記補	常本奈那
九州教務所書記に任命します	

小松大聖寺教務所書記	員辨一道
南米開教監督部書記に任命します	
総務部事務見習	中石弓月
総務部書記補に任命します	
総務部事務見習	中根優唯
同	手島英翔
同	高橋沙羅
本廟部書記補に任命します	
総務部事務見習	滋野唯賢
同	大塚香蓮
大谷祖廟事務所書記補に任命します	
総務部事務見習	武藤薫里
教育部書記補に任命します	
総務部事務見習	但馬摩耶
研修部書記補に任命します	
総務部事務見習	小原 望
同	高藤 縁
同	今井 優
組織部書記補に任命します	
総務部事務見習	嶋田美羽
同	森 遇
出版部書記補に任命します	
総務部事務見習	野呂音楽
財務部書記補に任命します	
総務部事務見習	篠岡 果
企画調整局書記補に任命します	
総務部事務見習	長守 然
北海道教務所書記補に任命します	
総務部事務見習	元平夏芽
金沢教務所書記補に任命します	
総務部事務見習	渡邊 淳
小松大聖寺教務所書記補に任命します	
総務部事務見習	橋本唯誠
大阪教務所書記補に任命します	
企画調整局主事	小谷 仁
企画調整局参事に任命します	
出版部主事	玉井 陸
出版部専門編集員に任命します	
	外山秀樹
本廟部出仕に任命します	
期限 2026年7月31日まで	
	京極孝文
審問院審事に任命します	
期限 2028年7月31日まで	
	浅野智成
審問院監事に任命します	
期限 2028年7月31日まで	
	越部良一
親鸞仏教センター嘱託研究員を委嘱します	

公示・告示・任免等

公示告示

告示第8号

2026年安居開設を下記のとおり定める。

2025年7月31日

宗務総長 木 越 渉

記

1 期 間 2026年7月17日(金)から7月31日(金)まで

2 場 所 真宗本廟、大谷大学

3 講 本 本講 『顕浄土真実教文類』
次講 『具三心義』

4 講 者 本講 講師 延塚 知道
次講 擬講 木越 康

以 上

任免辞令

旭川別院列座 草部俊裕

旭川別院会計の兼務を命じます

期限 2028年6月30日まで

福井別院会計 藤永俊影

吉崎別院会計の兼務を命じます

期限 2028年6月30日まで

名古屋別院書記 栗原賢治

名古屋別院会計の兼務を命じます

期限 2028年6月30日まで

三牧 準

井波別院列座に任命します

井波別院列座 三牧 準

井波別院書記の兼務を命じます

(以上、2025年7月1日)

黒萩 昌

修練道場指導に任命します

見義智証 本間義敦 滋野憲史 篠由希子

但馬末利花 相良義和

修練道場指導補に任命します

(以上、7月17日)

東北教務所書記 麻生顕誓

組織部主事 阿部 諒

研修部書記 宮戸かの子

願により役務を免じます

講師 延塚知道

2026年安居の本講講者に任命します

擬講 木越 康

2026年安居の次講講者に任命します

擬講 寺林彰則

同 青木 玲

2026年安居の都講に任命します

(以上、7月31日)

研修部次長 経森智志

本廟部次長に任命します

研修部主事 高月沙生子

研修部次長に任命します

京都教務所次長 内麻顕祐

組織部次長に任命します

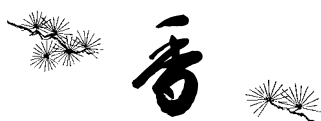
東京教務所次長 益田勇哲

北海道教務所次長に任命します

本廟部次長 大江覚成

東京教務所次長に任命します

組織部次長 白河祐亮



創業宝永年間 各宗大本山御用達

香老舗 松 榮 堂

京都市中京区烏丸通二条上ル東側
〒604-0857 電話 075(212)5590(代)

www.shoyeido.co.jp



東本願寺御用達

日下念珠店

〒600-8174

京都市下京区烏丸通花屋町下ル

電話 (075)351-6325

フリ-FAX 0120-89-5255

定休日：日曜日



創業三百三十年
御香・蠟燭

財木屋

〒602-8034 京都市上京区油小路通丸太町上ル
TEL(075)231-1063 FAX(075)231-1068

真宗 10月号

公示・告示・任免等 ご案内・要項

公示・告示・任免等

公示・告示	(2)
任免辞令	(2)
住職代務者	(4)
特命住職	(4)
特命住職代務者	(4)
特命教会主管者代務者	(5)
教師	(5)
学階	(5)
教導発令	(5)
得度	(5)
功章・旌賞	(7)
懲戒	(7)
敬弔	(8)

ご案内・要項

(広告) 月刊『同朋』10月号 —特集「アポリショニズム——今「廃」すべきこと」—	(9)
真宗本廟 参拝接待所のご案内	(10)
大谷祖廟（親鸞聖人御廟所）のご案内	(12)
真宗教化センターしんらん交流館のご案内	(13)
真宗本廟奉仕のご案内	(14)
現在受付中の募集・開催要項等	(14)
首都圏教化推進本部職員（法務員）募集要項	(15)
第14回世界同朋大会のご案内	(16)
総合相談室	(18)

本誌に関してのご意見・
ご要望をお寄せください。

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版『真宗』誌係
FAX:(075) 371-9211 E-mail:shuppan@higashihonganji.or.jp

2025年(令和7年)10月1日発行 第1459号 1部定価:275円(本体250円+税10%・送料別 毎月1日発行)

編集 東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)

発行所 真宗大谷派宗務所 代表者 木越 渉

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 電話(075)371-9181 振替01000-6-27404(出版部)

印刷所 (株)京富士印刷 京都市西京区大枝南福西町3-4

価値ある よき品質の製品をつくる会社



SHIBATAHOUITEN

Webサイト

【宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念 紅地天人之図総手刺繍御打敷謹納】

〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前(定休日 日曜日・祝日)

■TEL 075-341-6391(代)

■TEL フリーダイヤル 0120-07-6391

■FAX フリーダイヤル 0120-34-2816

■URL <https://shibata-houiten.com/>(Webカタログ掲載・商品動画配信)

■E-Mail shibatahoui@mub.biglobe.ne.jp



御堂装束動画

真宗大谷派 東本願寺御用達



京法衣事業協同組合加盟店



株式
会社

柴田法衣店

今月の推奨念珠



本星月菩提樹(白瑪瑙仕立)
店頭小売価格 6,600円(税込)
上質な本星月菩提樹と白瑪瑙を合わせ
白色本絹房でお仕立しました。



茶水晶 二十七玉(共仕立)
店頭小売価格 11,000円(税込)
落ち着きのある茶透明の茶水晶を、使い
やすい二十七玉でお仕立しました。

※掲載商品のカラー画像はオンラインショップでご覧頂けます。

御法要の記念品は

品質・価格・残った品物の御引取を保証する

念珠の製造専門店

福永念珠舗

創業寛政九年 京都

〒600-8174 京都市下京区東本願寺前上珠敷屋町角
電話 (075)-351-2960 FAX (075)-351-0018



茶水晶



本星月菩提樹



福永念珠舗
オンラインショップ

キャラクター鉛筆 プレゼントキャンペーン

期間：7月1日～10月31日

『書いて学ぶ親鸞のことば 歎異抄』と『書いて学ぶ親鸞のことば
正信偈』を同時に購入でキャラクター鉛筆を1本プレゼント！

毎月先着100名様限定！

無くなり次第終了となりますので、お買い求めはお早めに！



〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189 FAX.075-371-9211

東本願寺出版公式
オンラインショップは
こちら→



期間
数量限定

葬儀や法事における施本として最適な仏事冊子シリーズ

悲しみをご縁として

「あわせて・もらう」ということ―

新刊

新書変形判／24頁 定価…110円税込

金石潤導 著



なごりおしくおもえども

新刊

新書変形判／16頁 定価…110円税込

相馬 豊 著



葬儀やご法事をつとめること、その中で教えを聞くことは、私たちにとってどのような意味があるのか…？ それぞれの仏縁に出あい、そして大切な気づきをいただかれた人々のエピソードをとおして、「あわせて・もらう」ということを考える。

自らの死と、大切な人との別れ。誰もが抱えているこの“生死”の苦しみは、私たちに何を教えてくれているのか――。
親鸞聖人の教えと、生きることの悲しみに出あった人たちの言葉にたずねる。

仏事冊子のバックナンバーをご紹介します

人生の点検

― 帰敬式からの生活 ―

三島 多聞 著

定価…110円税込



亡き方を偲ぶ

― 報恩のこころ ―

林 憲淳 著

定価…110円税込



合掌のすがた

― 帰依三宝の称名念仏 ―

大窪 康充 著

定価…110円税込



真実のよりどころ

― 真宗における本尊 ―

海 法龍 著

定価…88円税込



供養のこころ

池田 勇諦 著

定価…88円税込



ごまかしのきかない人生

― 仏法聴聞とお念仏 ―

黒萩 昌 著

定価…110円税込



東本願寺出版
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

TEL:075-371-9189
FAX:075-371-9211

詳しい書籍情報・試し読みは
東本願寺出版 [検索](#)

当派の寺院・教会からのご注文は2割引となります。